

4. 暑さ指数の活用等に関する調査

国民の暑さや暑さ対策に対する認識、暑さ指数の認知度・活用状況を明らかにするため、WEB アンケートを用いた意識調査を実施した。

また、高齢者は 65 歳未満とくらべてインターネットの利用率が低いため、WEB アンケートでは高齢者の実態が把握できていない可能性がある。そこで、酷暑時の高齢者の日常生活行動を詳細に把握するため、高齢者については別途紙面での意識調査も実施した。

以下に調査結果を示す。

1) 実施概要

(1) WEB 調査

①実施方法

24 問の質問票を作成し、WEB アンケートにて調査をおこなった。

実施時期は 2021 年 10 月 5 日（火）～10 月 7 日（木）とした。

②対象者

地域別、年代別、性別の各属性別に 100 サンプルを確保することとし、計 6,400 サンプルの回答を確保した。

・地域 : 8 地域（北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北陸・甲信ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロック）

・年代 : 4 年代（15～29 歳、30～49 歳、50～64 歳、65 歳以上）

65 歳以上は 65～74 歳と 75 歳以上で 50 サンプルずつ回答を確保した。

・性別 : 2 パターン（男、女）

③調査項目

「屋外の活動について」「熱中症既往歴・高齢者との関係」「夏の暑さ・熱中症に関する基本的な知識」「熱中症予防情報サイト」「暑さ対策の実施状況」「エアコンの使用状況」「暑さに対する意識・行動変容等」「暑さ指数（WBGT）の名称変更」に関してそれぞれ質問項目を作成した。

(1) 屋外の活動について	
Q1-1	屋外活動において暑さを感じる【場面】
Q1-2	【場面】における暑さを感じる【時間】
(2) 熱中症既往歴・高齢者との関係	
Q2	熱中症の既往歴（自己診断含む）
Q3	高齢者の同居有無
Q4	高齢者への呼びかけの有無
Q5	高齢者への呼びかけの内容
(3) 夏の暑さ・熱中症に関する基本的な知識	
Q6	熱中症症状の理解
Q7	暑さ指数（WBGT）の認知の程度
Q8	暑さ指数（WBGT）の情報源
Q9	熱中症警戒アラートの認知の程度
Q10	熱中症警戒アラートも情報源
Q11	日常的に確認している暑さの情報
Q12	情報を確認する時間帯・タイミング
(4) 熱中症予防情報サイト	
Q13	熱中症予防情報サイトの認知の程度
Q14	熱中症予防情報サイトの利用方法

(5) 暑さ対策の実施状況	
Q15	屋外の暑さ対策と頻度
Q16	追加的に実施した暑さ対策
Q17-1	屋内日中の暑さ対策
Q17-2	屋内日中の暑さ対策の使用時間
Q18-1	屋内就寝時の暑さ対策
Q18-2	屋内就寝時の暑さ対策の使用時間
(6) エアコンの使用状況	
Q19	エアコンの設置・使用状況
Q20	エアコン使用をためらう理由
(7) 暑さに対する意識・行動変容等	
Q21	暑さに対する意識・行動変容
Q22	対策行動を増やした理由
Q23	対策行動を増やさない理由
(8) 暑さ指数（WBGT）の名称変更	
Q24	暑さ指数（WBGT）の名称変更

(2) 紙面調査

①実施方法

国民の暑さや暑さ対策に対する認識や、暑さ指数の認知度・活用状況を明らかにするため、全国シルバー人材センターにご協力いただき、紙面にて意識調査を実施した。

全国シルバー人材センター事業協議会に WEB 調査と同様の 8 地域が均等になるように選定いただいた都道府県シルバー人材センター70 団体に質問表を郵送で配布した。

実施時期は 2021 年 8 月 31 日（火）～9 月 17 日（金）とした。

②対象者

地域別に 100 サンプルを確保することとし、計 900 通の質問表を配布した。

- ・地域 : 8 地域（北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北陸・甲信ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロック）

地域ブロック	都道府県名	配布数
北海道ブロック	北海道	100
東北ブロック	青森県	100
関東ブロック	群馬県	100
北陸・甲信ブロック	石川県	100
東海ブロック	静岡県	100
近畿ブロック	和歌山県	100
四国・中国ブロック	徳島県	100
	山口県	100
九州・沖縄ブロック	福岡県	100

③調査項目

「インターネットの利用状況について」「屋外の活動について」「夏の暑さ・熱中症に関する基本的な知識」「熱中症予防情報サイト」「暑さ対策の実施状況」「エアコンの使用状況」に関してそれぞれ質問項目を作成した。

(1) インターネットの利用状況について	
Q1	この1年間の利用状況について
(2) 屋外の活動について	
Q2-1	屋外活動において暑さを感じる【場面】
Q2-2	【場面】における暑さを感じる【時間】
(3) 夏の暑さ・熱中症に関する基本的な知識	
Q3	ここ数年の暑さについて
Q4	熱中症の既往歴（自己診断含む）
Q5	熱中症症状の理解
Q6	暑さ指数（WBGT）の認知の程度
Q7	暑さ指数（WBGT）の情報源
Q8	熱中症警戒アラートの認知の程度
Q9	熱中症警戒アラートも情報源
Q10	日常的に確認している暑さの情報
(4) 熱中症予防情報サイト	
Q11	熱中症予防情報サイトの認知の程度

(5) 暑さ対策の実施状況	
Q12	屋外の暑さ対策と頻度
Q13	追加的に実施した暑さ対策
Q14	屋内日中の暑さ対策の使用時間
Q15	屋内就寝時の暑さ対策の使用時間
(6) エアコンの使用状況	
Q16	エアコンの設置・使用状況
Q17	エアコン使用をためらう理由

2) 調査結果

各設問の回答状況を以下に示した。

(1) 回答者属性

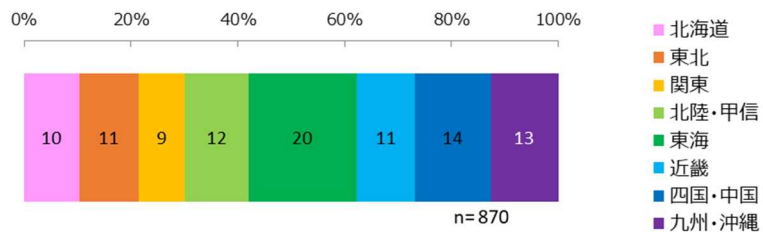
①WEB 調査

調査の性質上、設定した調査対象にて 6,400 サンプルの回答を確保した。

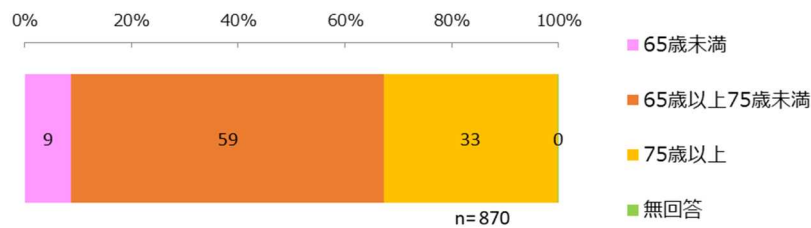
②紙面調査

各都道府県シルバー人材センターから合計 870 サンプルの回答（回収率：約 97%）を確保した。

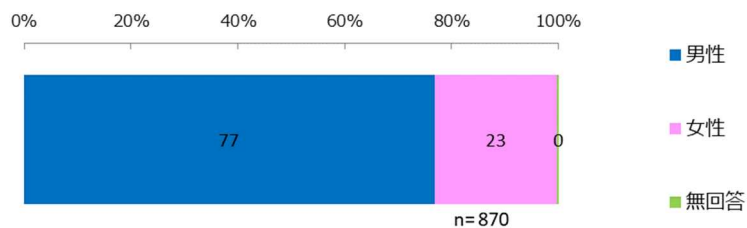
- ・地域 : 8 地域（北海道ブロック、東北ブロック、関東ブロック、北陸・甲信ブロック、東海ブロック、近畿ブロック、四国・中国ブロック、九州・沖縄ブロック）



- ・年代 : 3 年代（65 歳未満、65~74 歳、75 歳以上）



- ・性別 : 2 パターン（男、女）



(2) インターネット利用率

①WEB 調査

WEB 調査の回答者は、「日常的にインターネットを利用している」に分類した。

②紙面調査

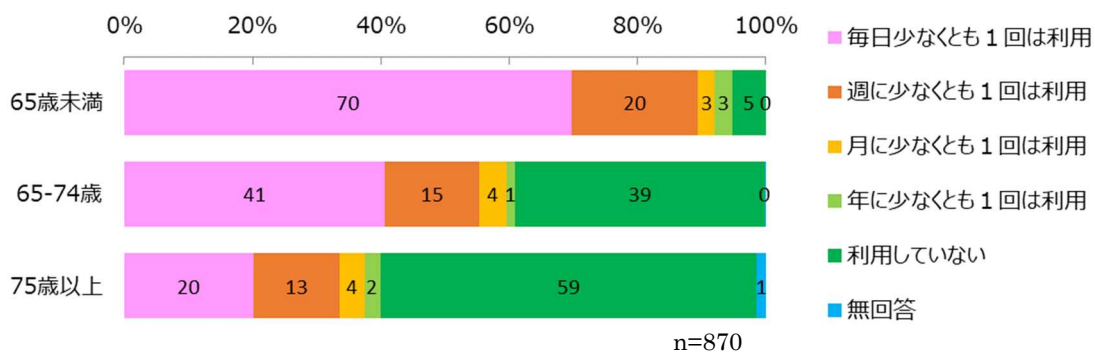
インターネット利用状況別の回答状況を把握するため、以下の項目で「インターネットを日常的に利用している」方と、「ほぼ利用していない」方に分類した。

Q1 この1年間のインターネットの利用状況について

この1年間のインターネットの利用状況についてお伺いします。あなたはインターネットを利用していますか。(1つだけに○)

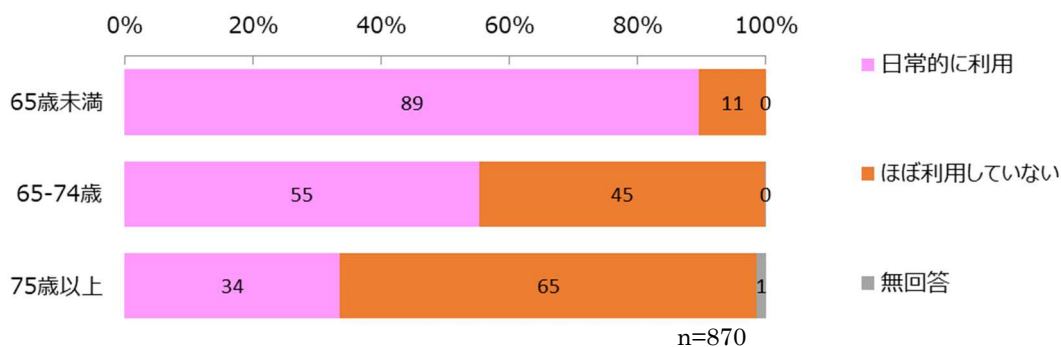
65歳未満では7割が「毎日少なくとも1回は利用している」とし、75歳以上で約6割が利用していないと回答していた。

【紙面調査】



Q1 (インターネット利用状況) で「毎日少なくとも1回は利用している」もしくは「週に少なくとも1回は利用している」と回答した者を「日常的に利用している」、それ以下の利用頻度の回答者を「ほぼ利用していない」と定義すると、65-75歳で約5割の回答者がインターネットを利用しており、75歳以上は6割以上の回答者がインターネットを利用していなかった。

【紙面調査】



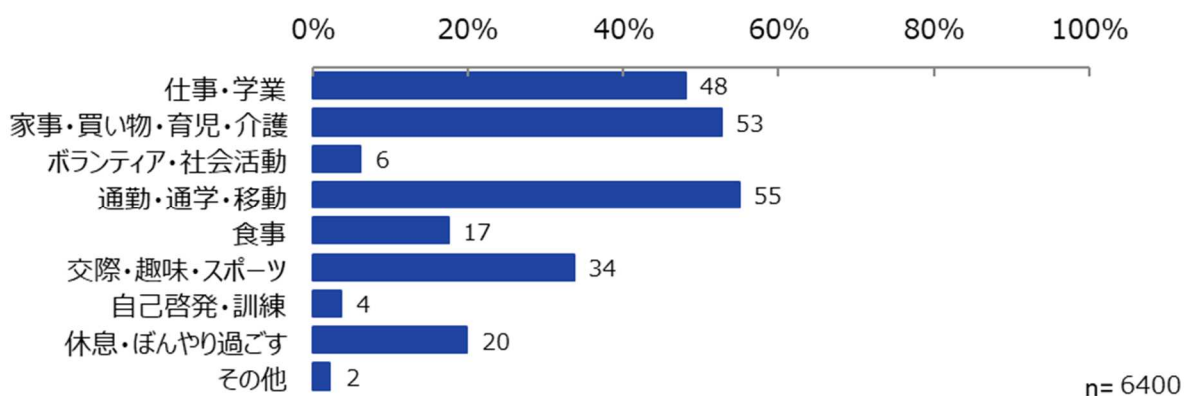
(3) 屋外の活動について

Q1-1 屋外活動において暑さを感じる【場面】

屋外の活動について伺います。あなたは夏の日常生活（平日の日中）において、暑さを感じる場面をお答えください。

最も暑さを感じている場面は「通勤・通学・移動」で5割以上であった。次いで、「家事・買い物・育児・介護」で5割程度、「仕事・学業」で5割以下であった。

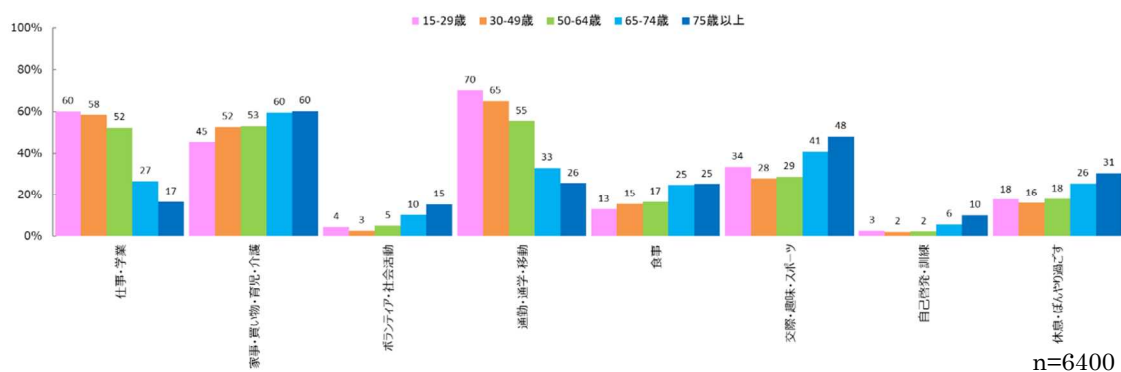
【WEB 調査】



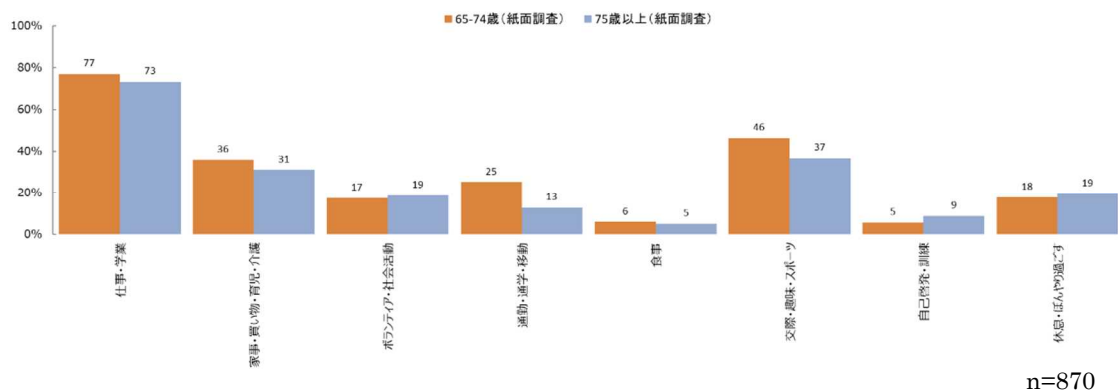
年代が低いほど「通勤・通学・移動」「仕事・学業」で暑さを感じている。

また、紙面調査において「仕事・学業」でWEB調査よりも暑さを感じている傾向にあった。これは紙面調査の対象がシルバー人材センターであり、活発に仕事をされている方であることが推測される。

【WEB 調査】

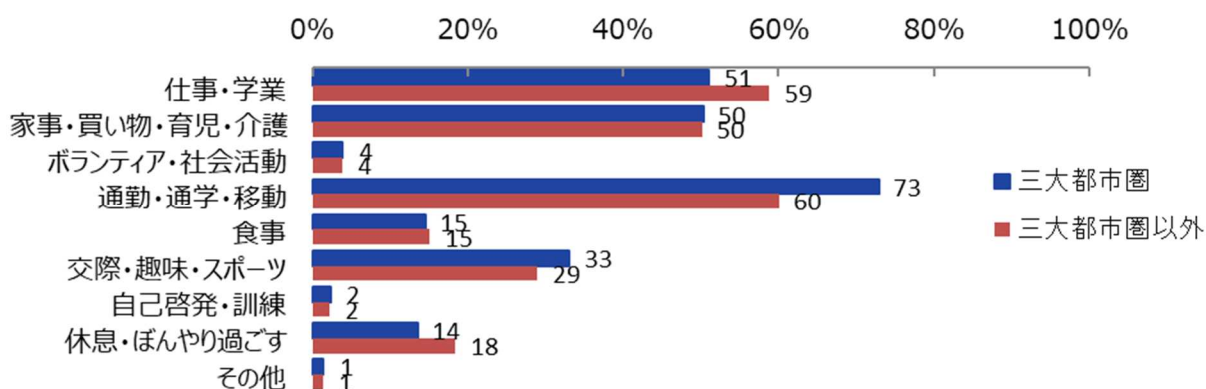


【紙面調査】



65歳未満で最も多く暑さを感じている場面であった「通勤・通学・移動」については、交通手段により回答結果が異なると考えられる。国土交通省¹によれば、「通勤、通学、業務」の交通手段として自動車を使用している割合が三大都市圏は地方都市に比べ半分以下となっている。そこで、65歳未満の三大都市圏と三大都市圏以外で比較すると、「通勤・通学・移動」で暑さを感じると回答した割合は、三大都市圏では三大都市圏以外に比べて約1割高かった。

【WEB 調査】



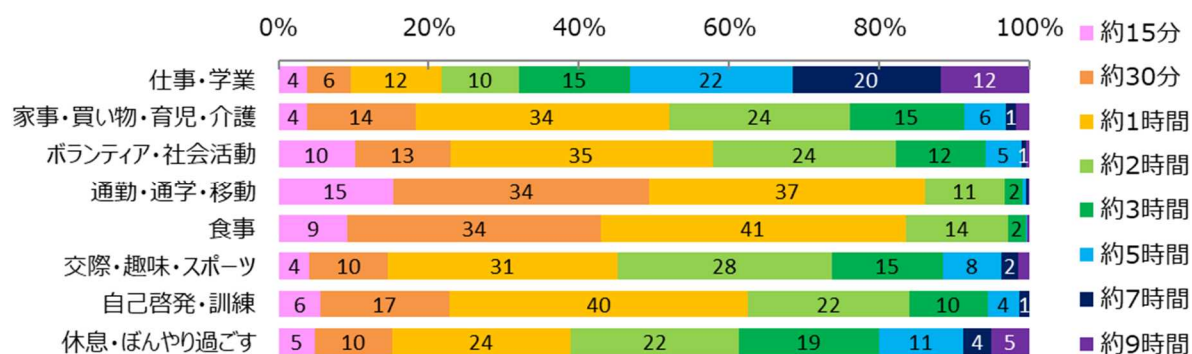
三大都市圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県

Q1-2 【場面】における暑さを感じる【時間】

先ほどお答えいただいた、暑さを感じている時間が最も長い【場面】について、一日あたりそれぞれにける時間（平日日中）を選択してください。

「通勤・通学・移動」では主に約30分～1時間程度暑さを感じていた。「家事・買い物・育児・介護」や「仕事・学業」では、「通勤・通学・移動」と比べ、長い時間暑さを感じている傾向にあることがわかった。

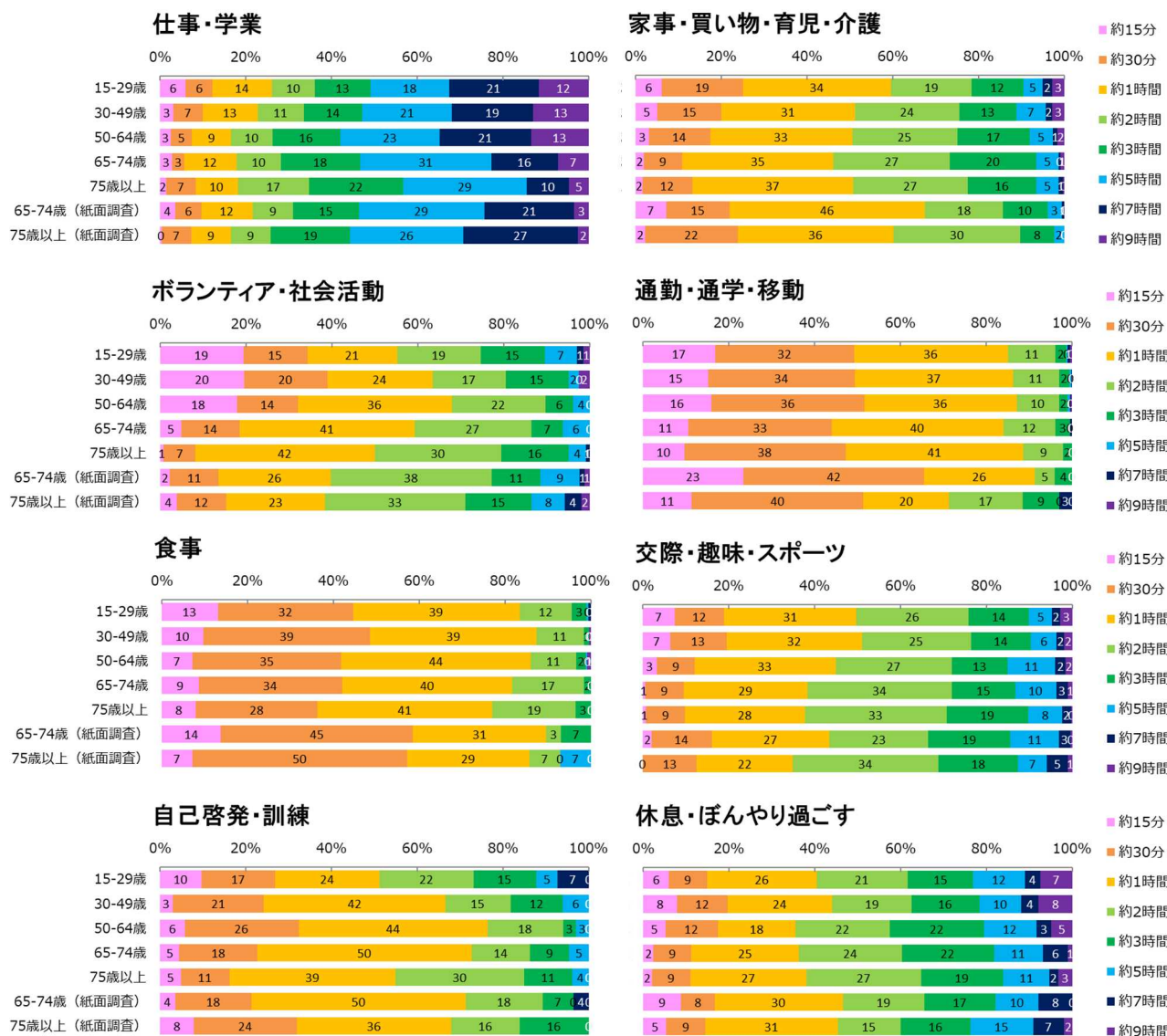
【WEB 調査】



¹ 都市における人の動きとその変化～平成27年度全国都市交通特性調査集計結果より～（平成27年度国土交通省）

「ボランティア・社会活動」は 65 歳以上で長時間暑さを感じており、特に紙面調査の方が暑さを感じていた。

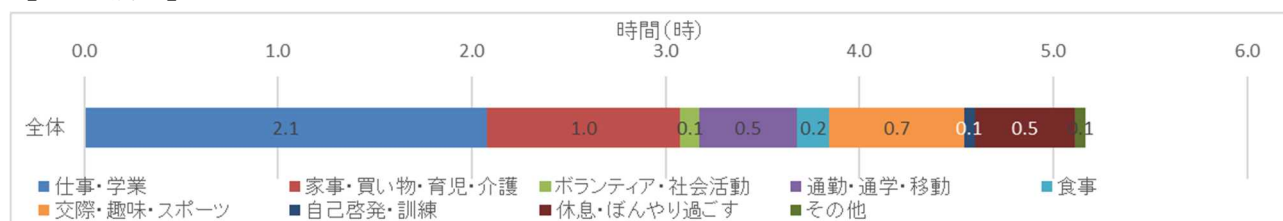
「通勤・通学・移動」の 3 時間以上暑さを感じているとしている回答者は、75 歳以上の紙面調査で他の年代と比べ 2 倍程度高くなった。



1日当たりの平均的な暑さを感じている時間（暑さを感じている場面%×平均時間）を集計した。

1日あたりの暑さを感じている平均総時間は5.2時間であった。暑さを感じる時間が長かったのは「仕事・学業」で約2時間、最も暑さを感じている場面である「通勤・通学・移動」では約30分であった。

【WEB 調査】

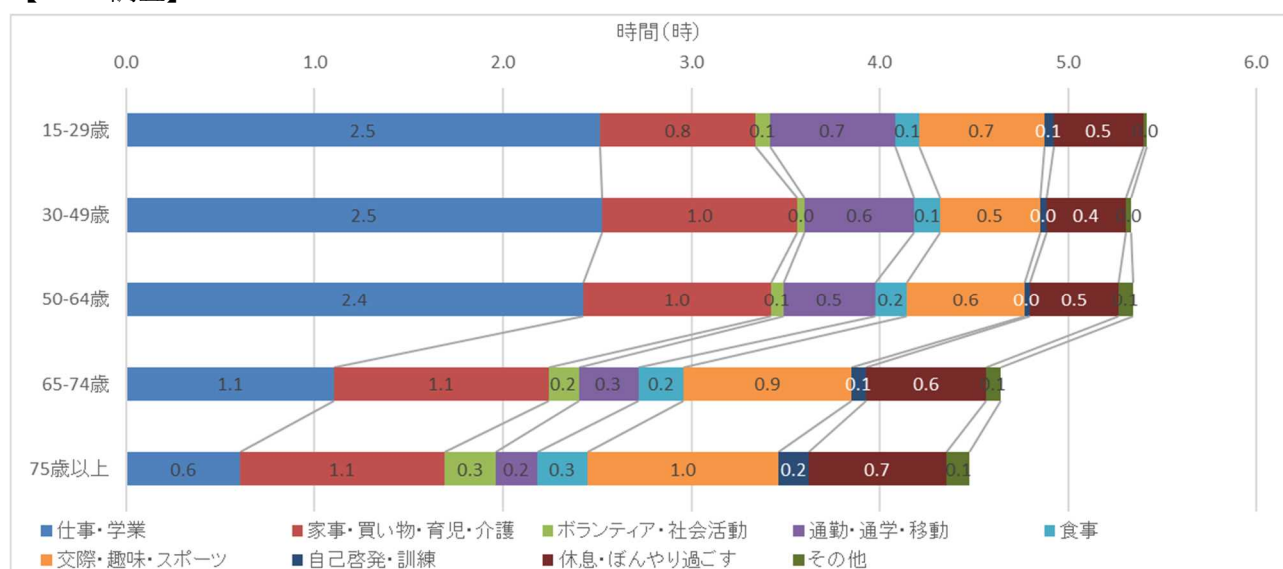


年齢別にみると暑さを感じる時間は、65歳未満では「仕事・学業」が最も長く、WEB調査の65歳以上では「交際・趣味・スポーツ」、紙面調査の65歳以上では「仕事・学業」で3時間以上であった。

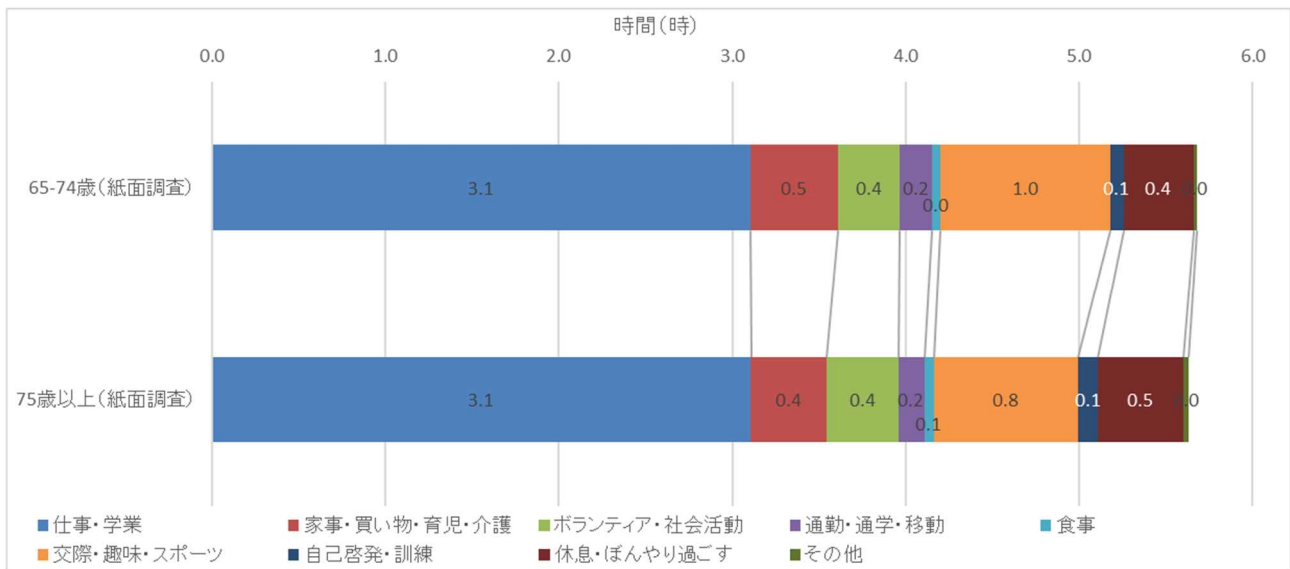
また、紙面調査において「仕事・学業」でWEB調査よりも暑さを感じている傾向にあった。これは紙面調査の対象がシルバー人材センターであり、活発に仕事をされている方であることが推測される。

「通勤・通学・移動」は、65歳未満は65歳以上と比べ、長い傾向が見られた。

【WEB 調査】



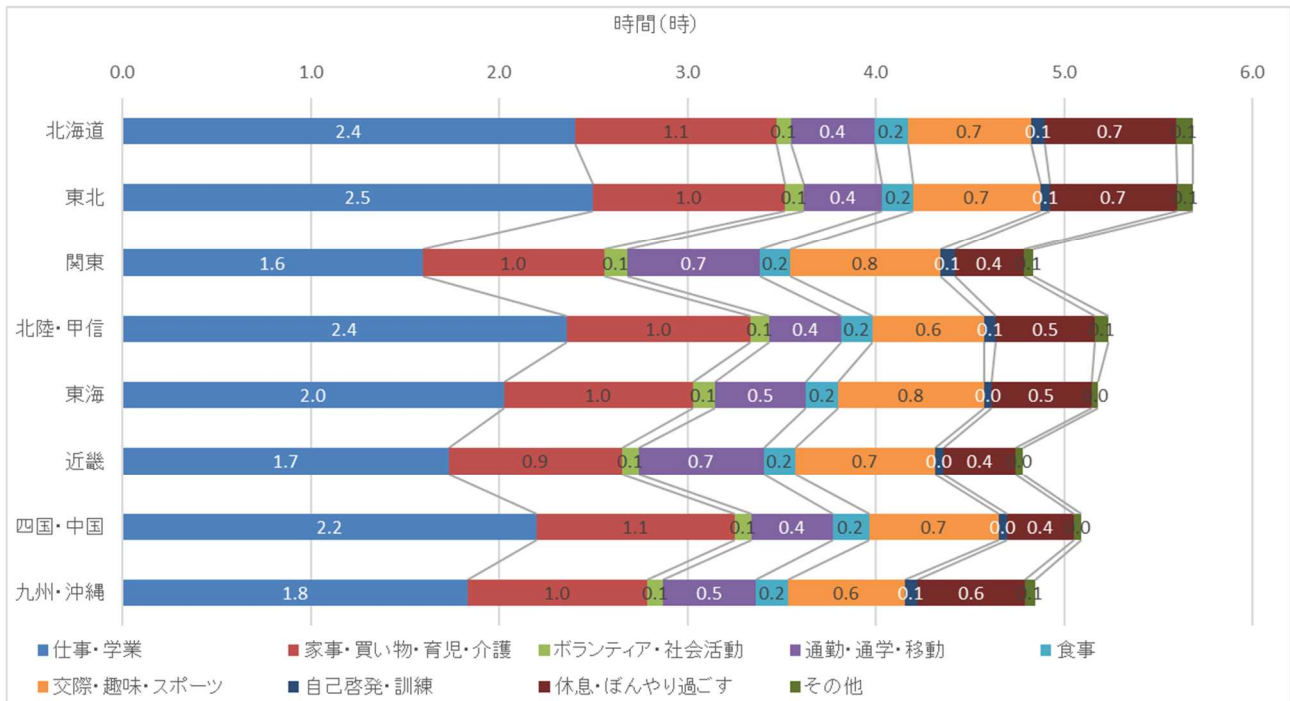
【紙面調査】



地域別に比較すると、北海道と東北で暑さを感じる時間が他の地域と比べ 0.5～1 時間程度長くなっていた。

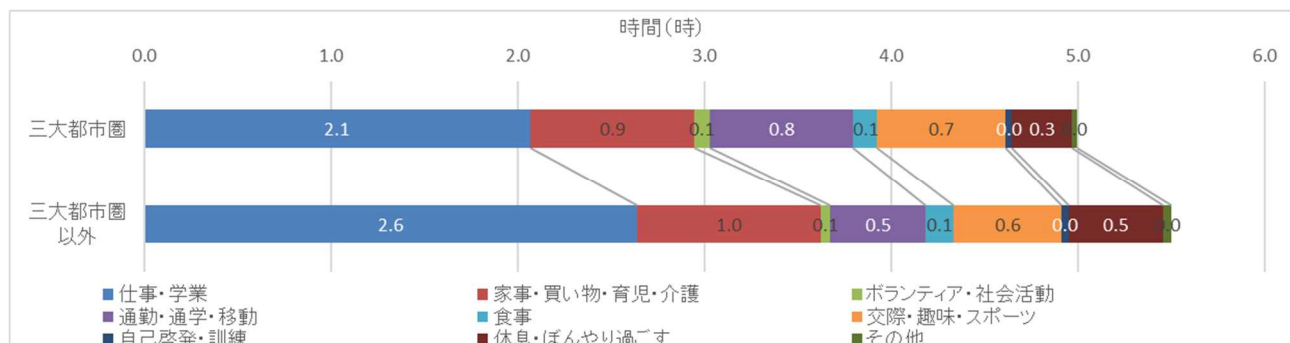
関東や近畿では、それ以外の地域と比べ「通勤・通学・移動」で暑さを感じる時間の長さが 1.4～1.8 倍となっていた。

【WEB 調査】



65歳未満の三大都市圏と三大都市圏以外で比較したところ、「仕事・学業」では三大都市圏以外の方が暑さを感じる時間が長く、「通勤・通学・移動」では三大都市圏の方が長くなっていた。

【WEB 調査】



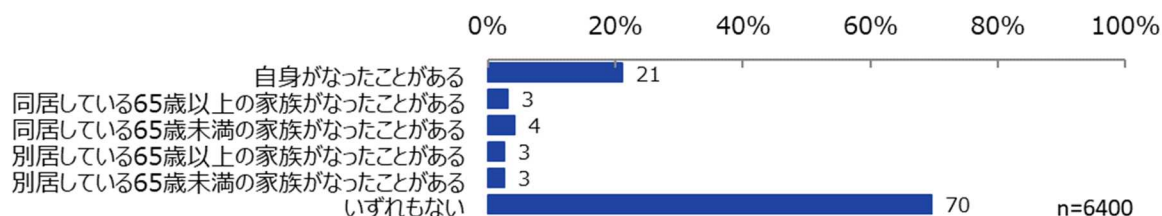
(4) 熱中症既往歴・高齢者との関係

Q2 熱中症の既往歴（自己診断含む）

ご自身またはご家族や身近な方が「熱中症」になった経験はありますか。（いくつでも）※病院で診断された場合だけでなく、自己判断での場合も含めてお答えください。

2割程度の回答者が、自身及び家族が熱中症になったことがある。

【WEB 調査】

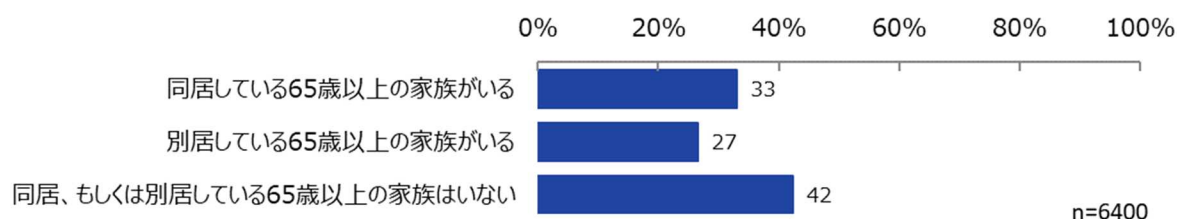


Q3 高齢者との同居有無

現在同居、もしくは別居している 65 歳以上の家族はいらっしゃいますか。（いくつでも）

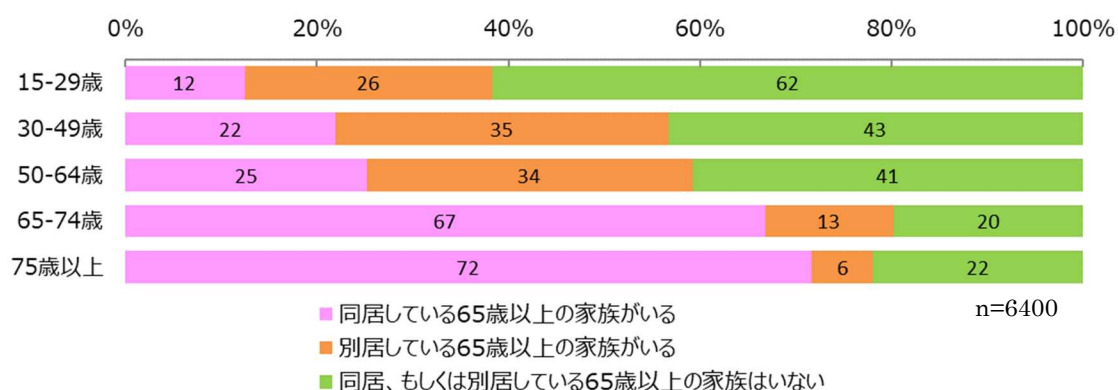
5割以上の回答者に高齢者の家族があり、3割以上が同居、3割程度が別居している。

【WEB 調査】



65 歳以上の回答者の 7 割程度が同居の 65 歳以上がいる一方で、65 歳未満では 2 割程度であった。

【WEB 調査】

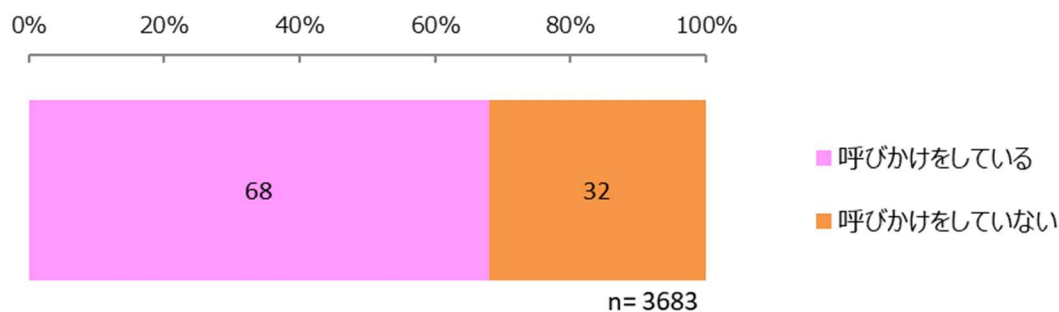


Q4 高齢者への呼びかけの有無

現在、同居、もしくは別居している 65 歳以上の家族に対し、熱中症対策に関して呼びかけをしていますか。

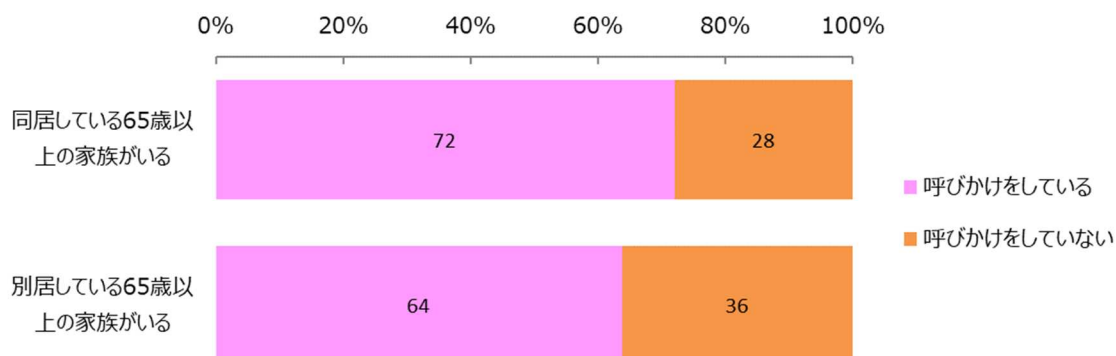
7 割程度の回答者が、熱中症対策に関する「呼びかけ」を実施している。

【WEB 調査】



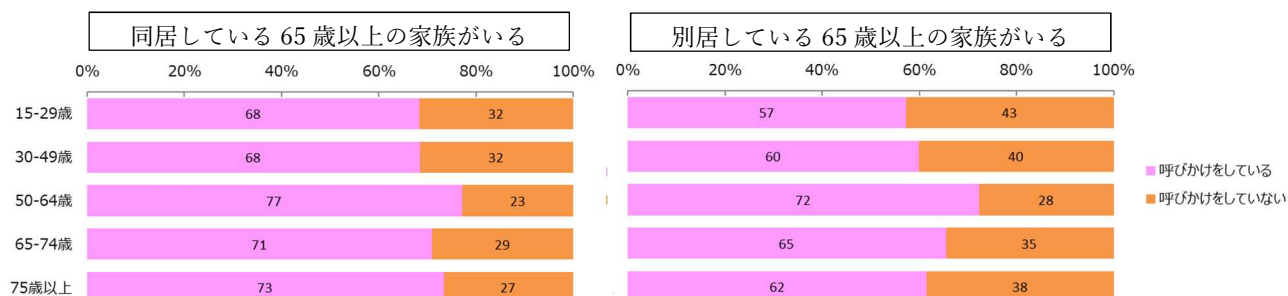
同居している 65 歳以上の家族がいる回答者で 7 割程度、別居している 65 歳以上の家族がいる回答者で 6 割程度、熱中症対策に関する「呼びかけ」を実施している。

【WEB 調査】



自らの親の年代が高齢者になる 50 から 64 歳年代の方が特に「呼びかけ」を実施している。

【WEB 調査】

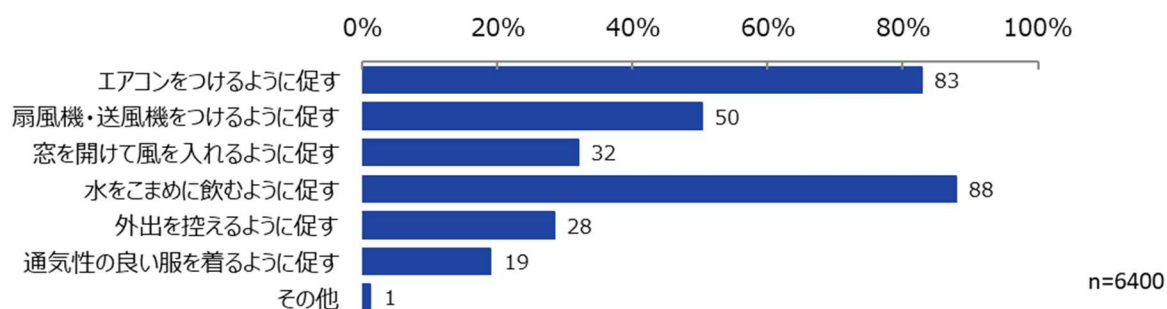


Q5 高齢者への呼びかけの内容

現在同居、もしくは別居している 65 歳以上の家族に対し、熱中症対策に関して、どのような呼びかけをしていますか。(いくつでも)

最も多い呼びかけは「水をこまめに飲むよう促す」で 9 割程度であった。次いで「エアコンを付けるように促す」で 8 割程度であった。

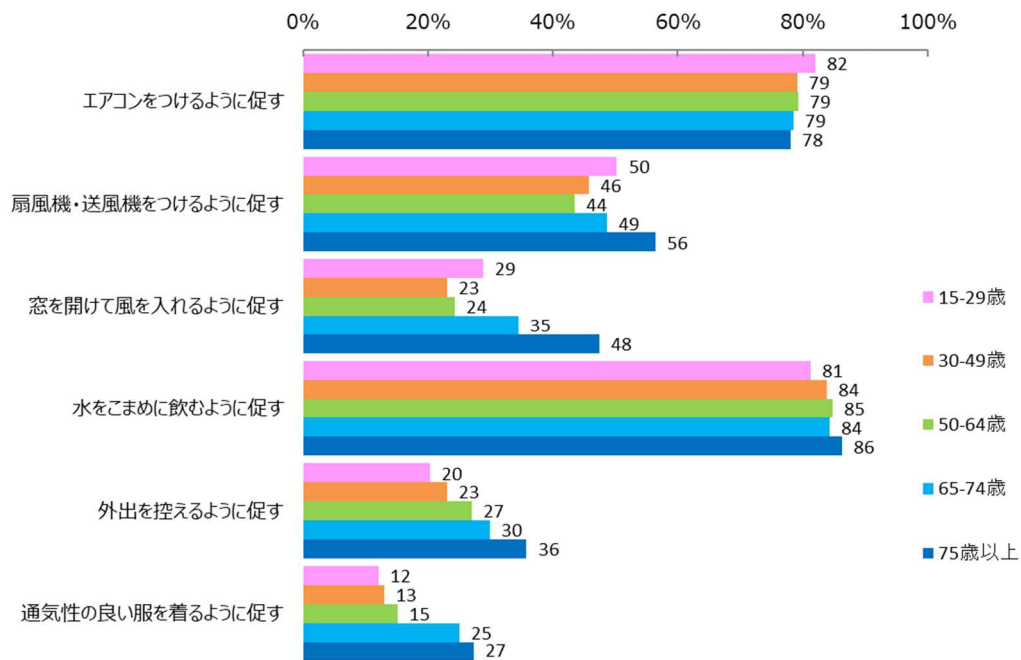
【WEB 調査】



※「その他」の回答：タブレット、経口補水液等で塩分摂取 (n=9)

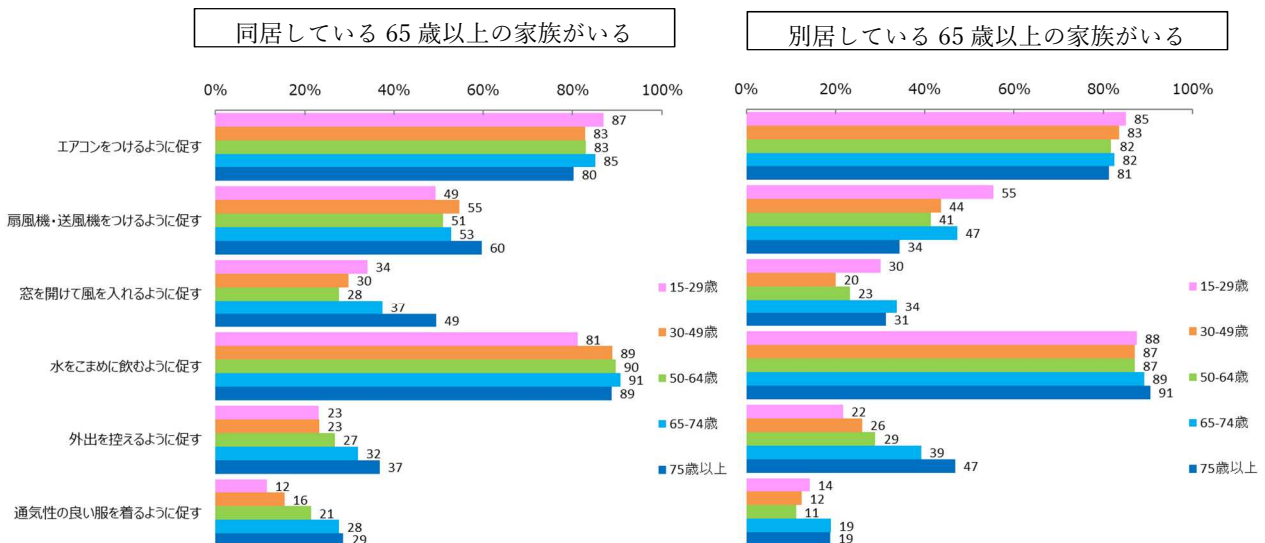
65 歳以上の家族がいる回答者は年代別に見ても、8 割以上で水をこまめに飲むよう促しており、8 割程度でエアコンをつけるように促していた。また、年代が高くなるほど、65 歳以上の家族に外出を控えるように促していた。

【WEB 調査】



同居または別居別に見ても同様の結果となった。

【WEB 調査】



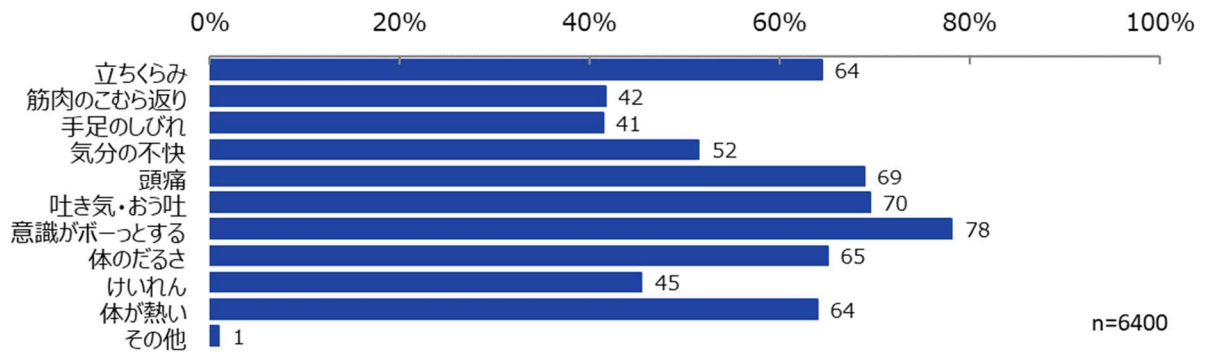
(5) 夏の暑さ・熱中症に関する基本的な知識

Q6 熱中症症状の理解

熱中症の症状だと考えるものをお答えください。(いくつでも)

「筋肉のこむら返り」「手足のしびれ」といった軽度の症状の認知度が5割以下となっていた。重度の症状の「けいれん」についても5割以下となっていた。

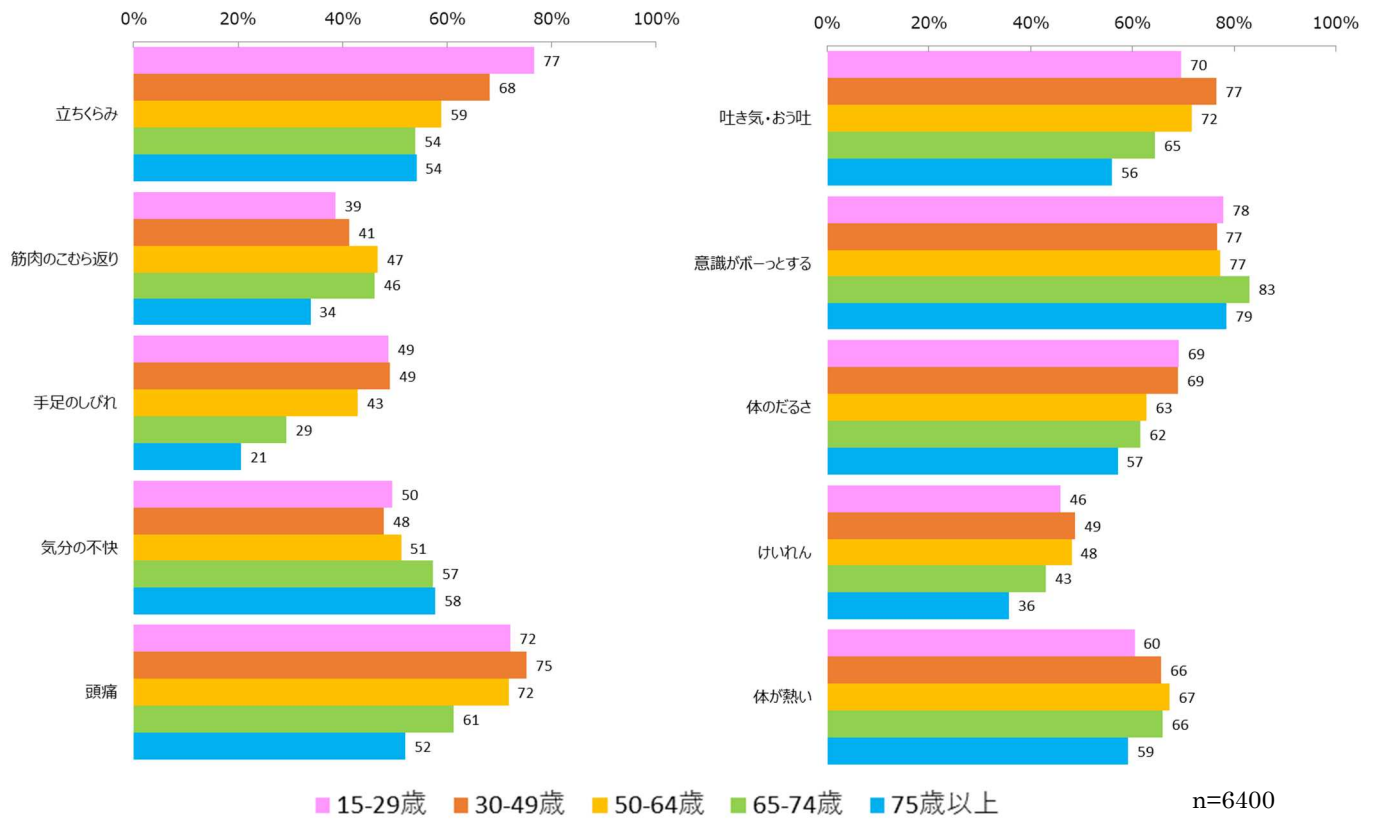
【WEB 調査】



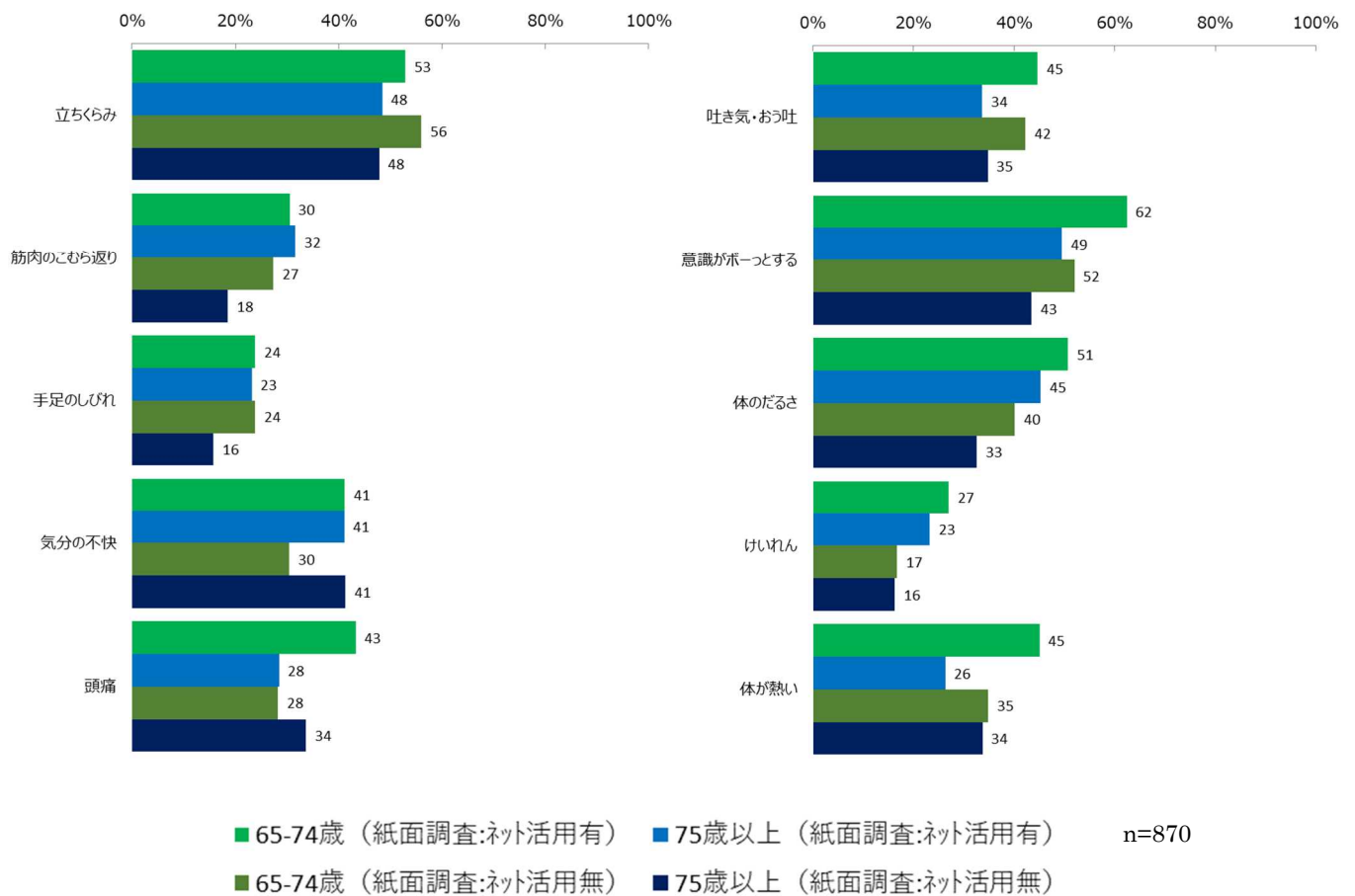
※「その他」の回答：汗が出ない (n=3)

どの症状においても、年代が高いほど理解度が低くなる傾向にあった。一部の症状については紙面調査のインターネットを活用していないとしている方の理解度が低かった。

【WEB 調査】



【紙面調査】

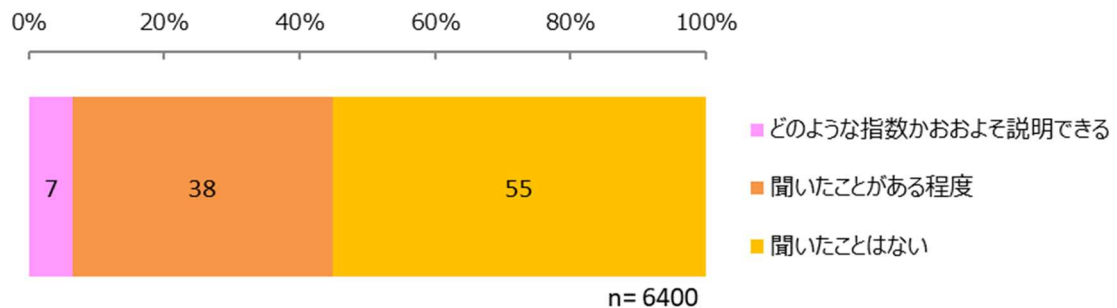


Q7 暑さ指数（WBGT）の認知の程度

「暑さ指数（WBGT）」を知っていますか。

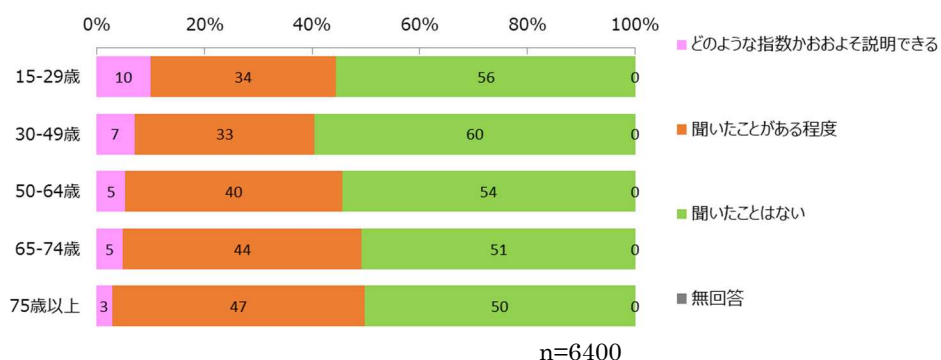
暑さ指数の認知度は44.9%（昨年度は46.5%）で、どのような指数か説明できる回答者は6.5%（昨年度は6.2%）であった。

【WEB 調査】

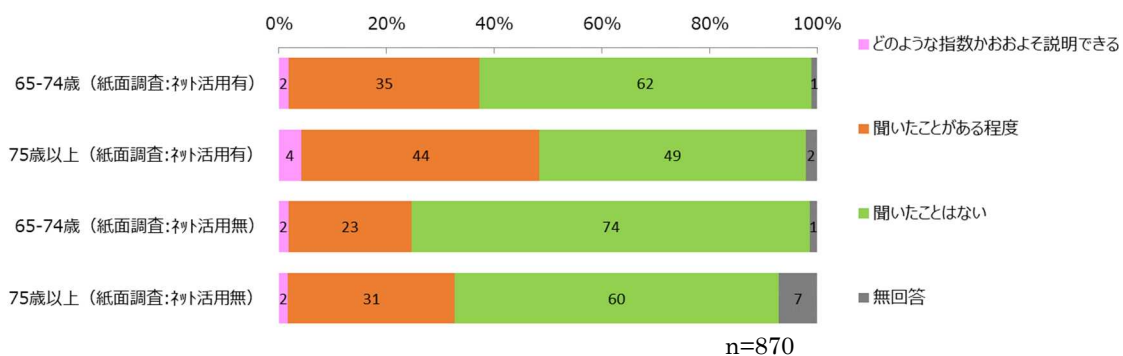


紙面調査のインターネットを利用していない方の認知度が低くなる傾向にあった。

【WEB 調査】



【紙面調査】



4 か年の暑さ指数 (WBGT) の認知度は、若干ばらつきがあるものの、傾向としての変化は見られなかった。

【WEB 調査】

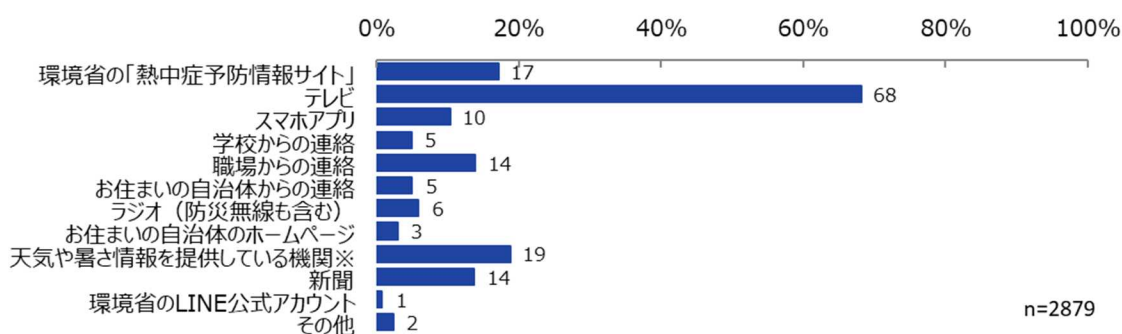


Q8 暑さ指数（WBGT）の情報源

「暑さ指数（WBGT）」をどこで聞いたり見たりしたかお答えください。（いくつでも）

「テレビ」が最も多く、7割程度であった。次いで「天気や暑さ情報を提供している機関」が2割程度、環境省の「熱中症予防情報サイト」は17%（昨年度は16%）であった。

【WEB 調査】

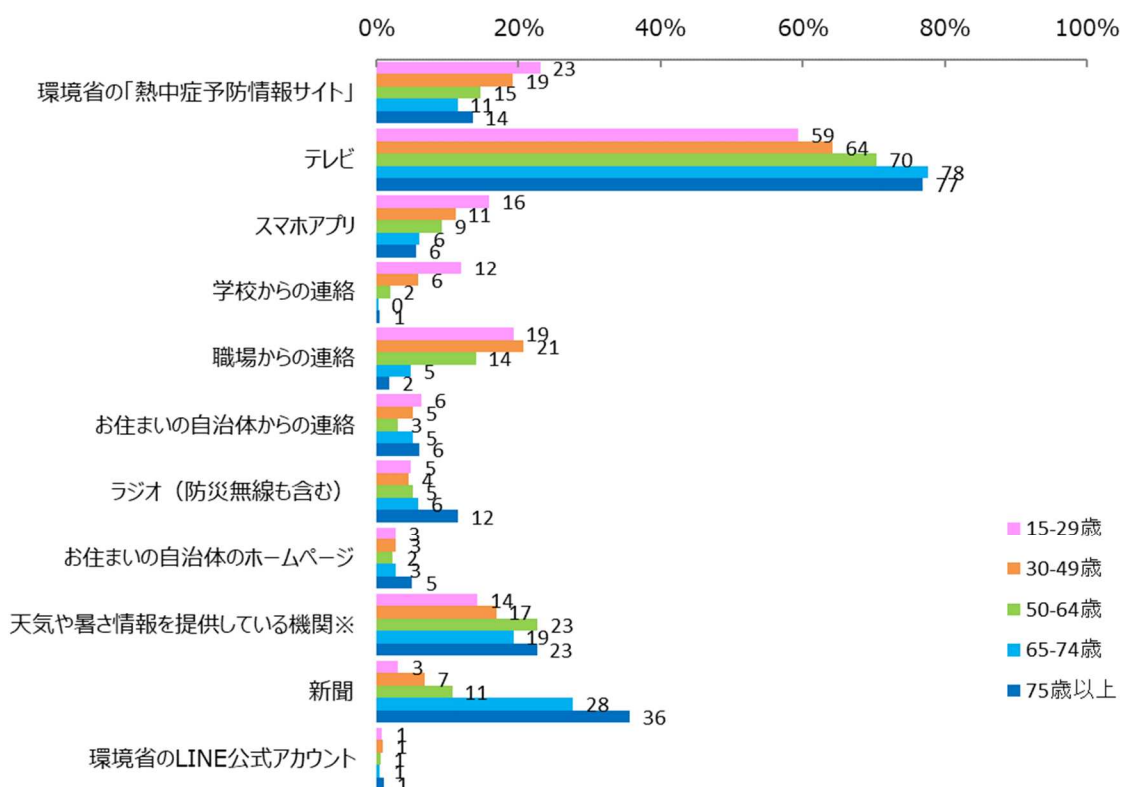


※気象庁、日本気象協会、Yahoo!天気など

「その他」の回答：学校等での授業（n=13）

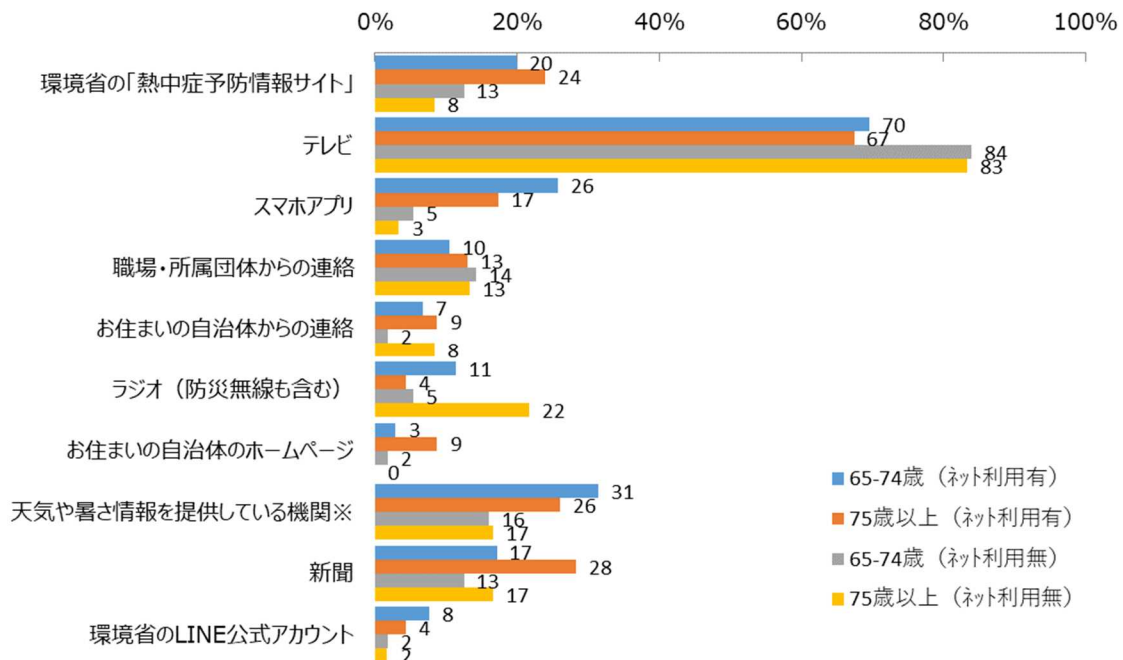
年齢が高くなるほど、テレビ、新聞から情報を入手している傾向にある。

【WEB 調査】



紙面調査においても同様にテレビで情報を得ており、特にインターネットを利用していない方が高い傾向にある。また、インターネットを利用していない方は新聞で情報を収集している割合が各年齢で1から2割程度低かった。

【紙面調査】

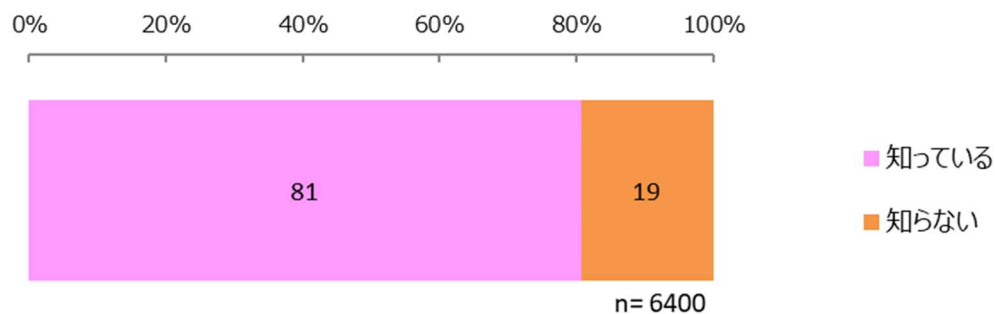


Q9 熱中症警戒アラートの認知の程度

「熱中症警戒アラート」を知っていますか。

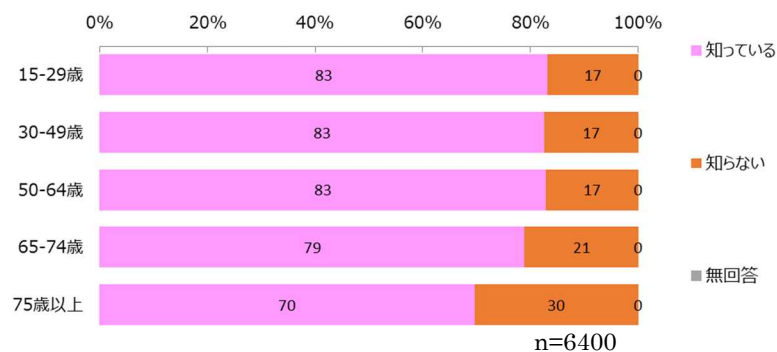
熱中症警戒アラートの認知度は80.7%（昨年度は68.4%）であった。

【WEB 調査】

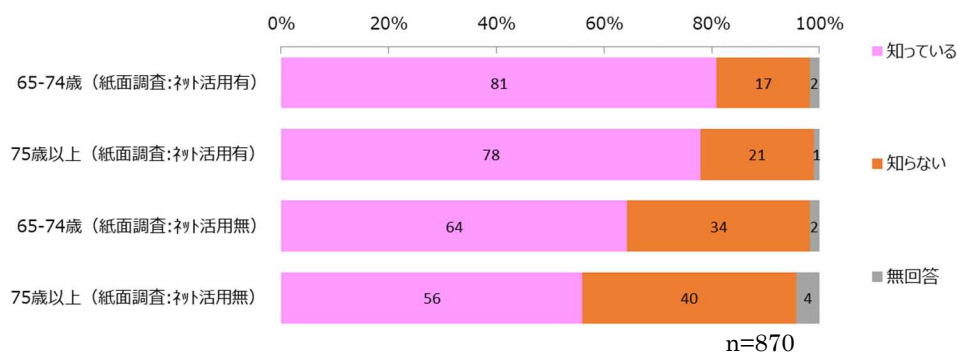


紙面調査のインターネットをほぼ利用していない方の認知度が低くなる傾向にあり、年齢が高くなるほど認知度が低くなっていた。

【WEB 調査】



【紙面調査】



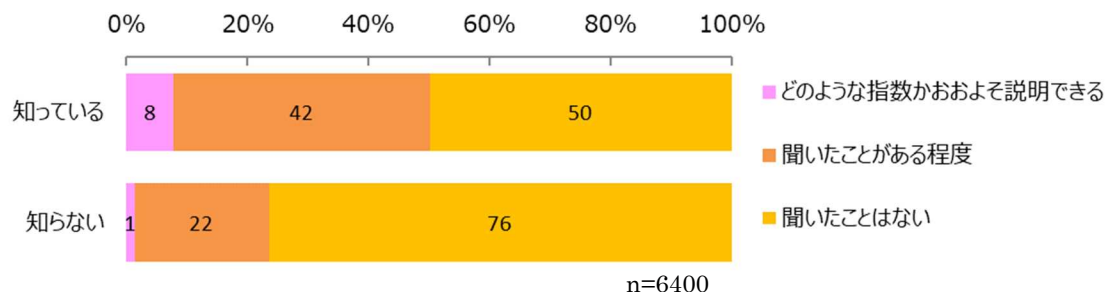
今年度から熱中症警戒アラートが全国で運用が開始発出されたためか、認知度は令和2年度と比べ1割程度高くなっていた。

【WEB 調査】



暑さ指数（WBGT）の認知度（Q7）との関係を確認すると、熱中症警戒アラートを知っている方が暑さ指数（WBGT）の認知度が高い傾向にあった。

【WEB 調査】

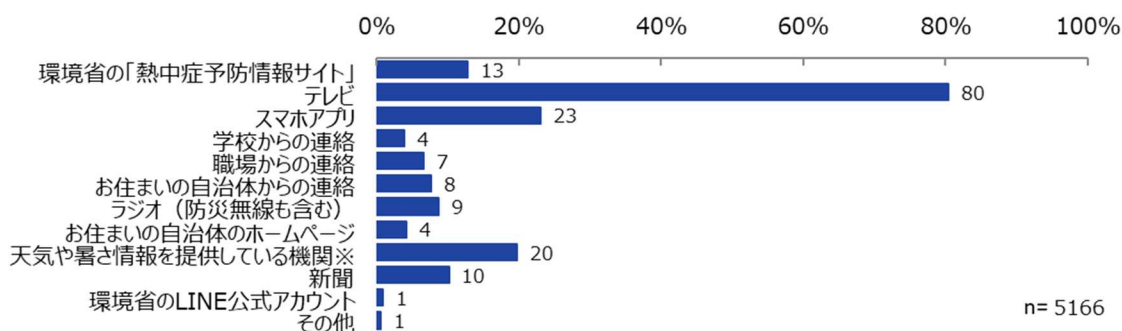


Q10 熱中症警戒アラートの情報源

「熱中症警戒アラート」をどこで聞いたり見たりしたかお答えください。（いくつでも）

「テレビ」が最も多く、8割であった。次いで、「スマホアプリ」が2割程度、環境省の「熱中症予防情報サイト」は13%（昨年度は10%）であった。

【WEB 調査】

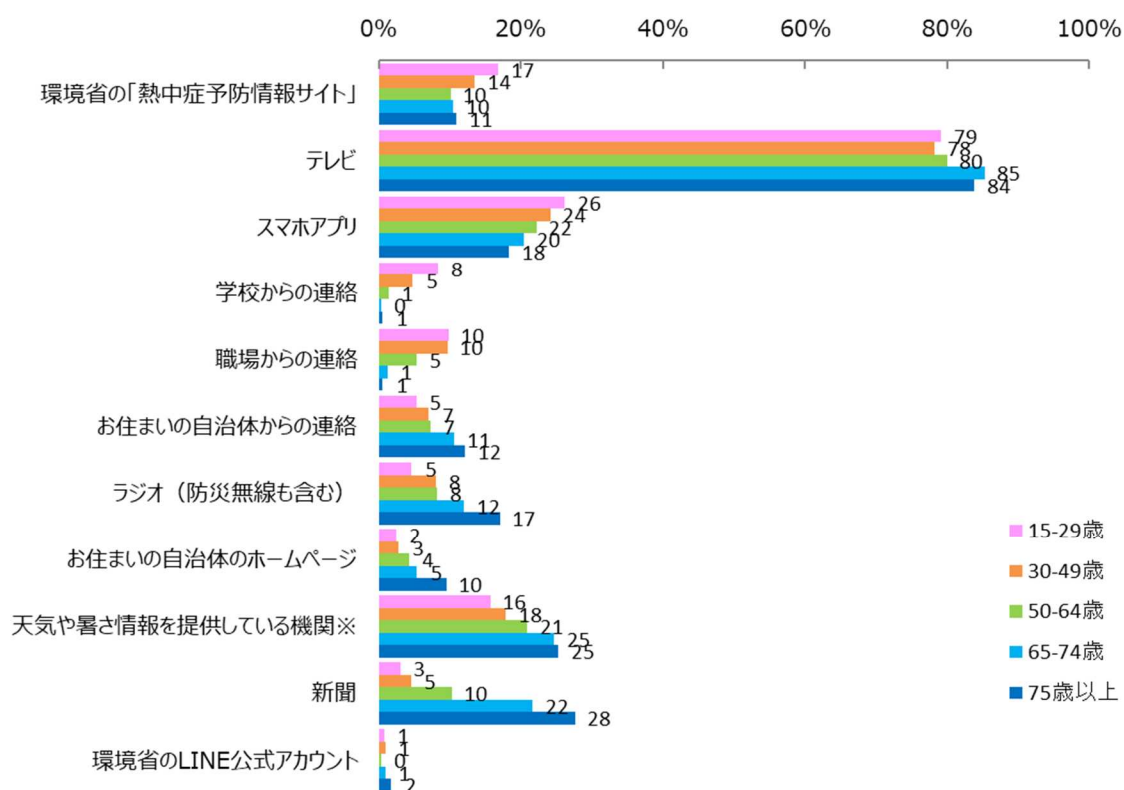


※気象庁、日本気象協会、Yahoo!天気など

「その他」の回答：SNS（n=2）

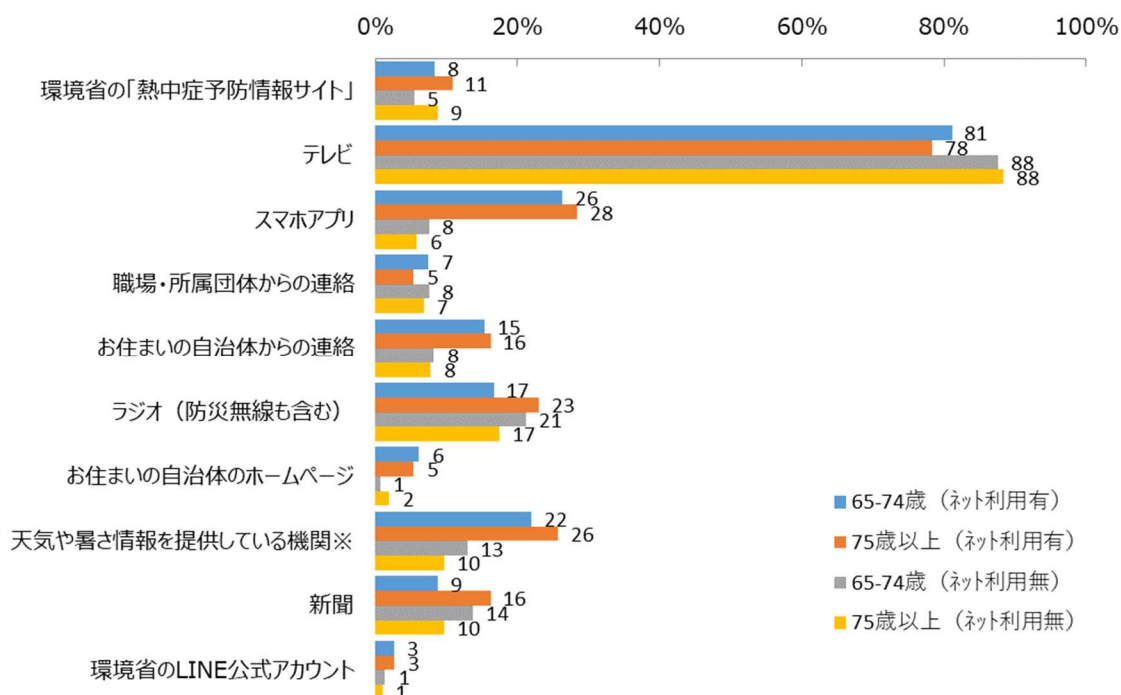
年齢が高くなるほど、テレビ、新聞から情報を入手している傾向にある。

【WEB 調査】



紙面調査においても同様にテレビで情報を得ており、特にインターネットを利用していない方が高い傾向にある。紙面調査の対象者は、WEB 調査の対象者に比べて新聞で情報を収集している割合が各年齢で低い傾向にある。

【紙面調査】

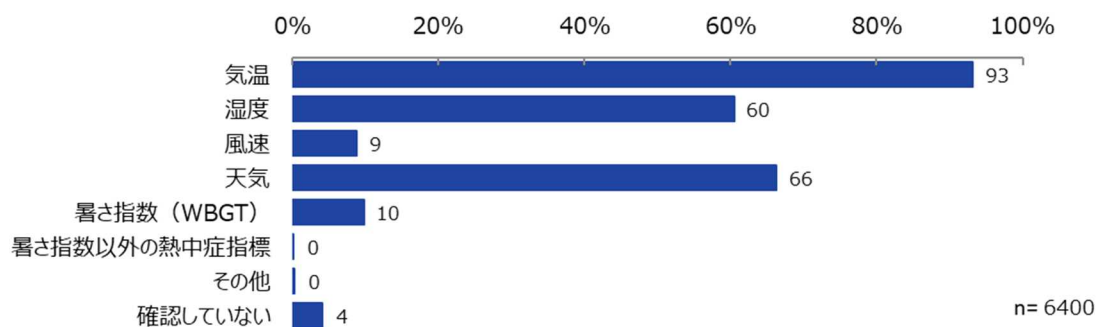


Q11 日常的に確認する暑さの情報

あなたが夏に日常的に確認している暑さの情報をお答えください。（いくつでも）

気温や湿度、天気等の指標を確認している割合が高い一方、暑さ指数を確認している割合は9.8%（昨年度は9.9%）であった。

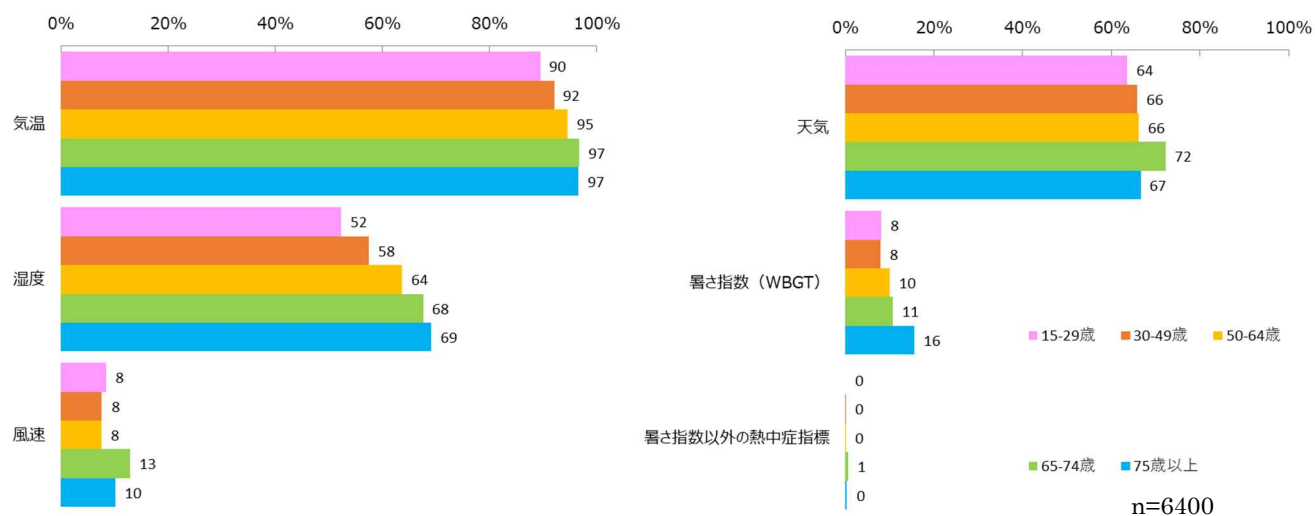
【WEB 調査】



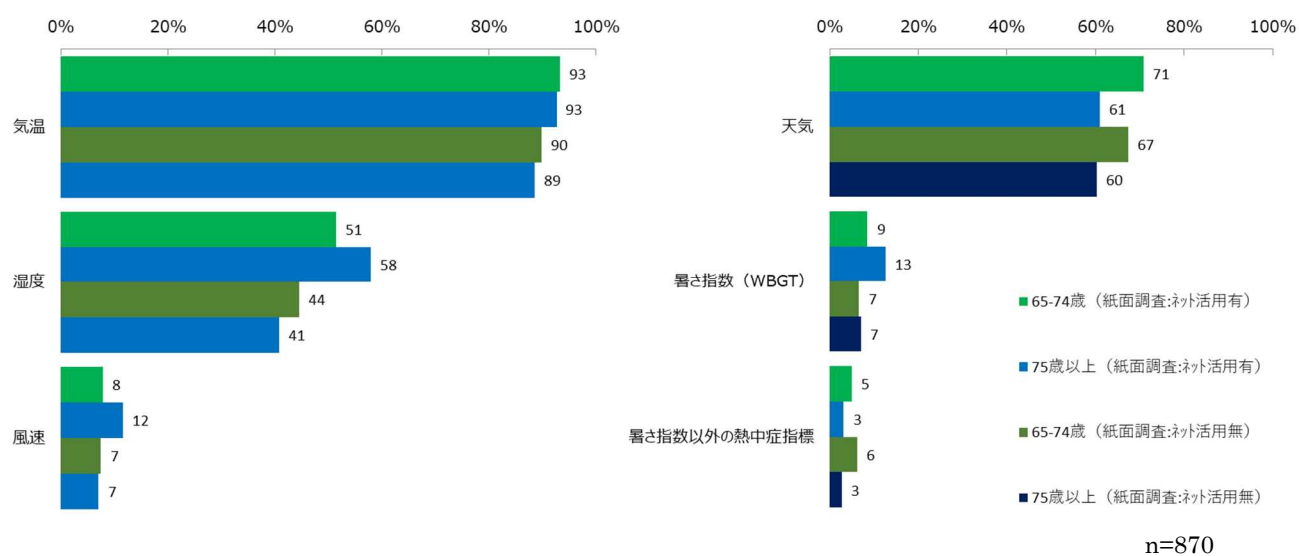
※「その他」の回答：紫外線（n=7）、熱中症警戒アラート（n=3）

WEB 調査、紙面調査共に気温を 9 割程度が確認しており、年代別に違いは見られなかった。

【WEB 調査】



【紙面調査】

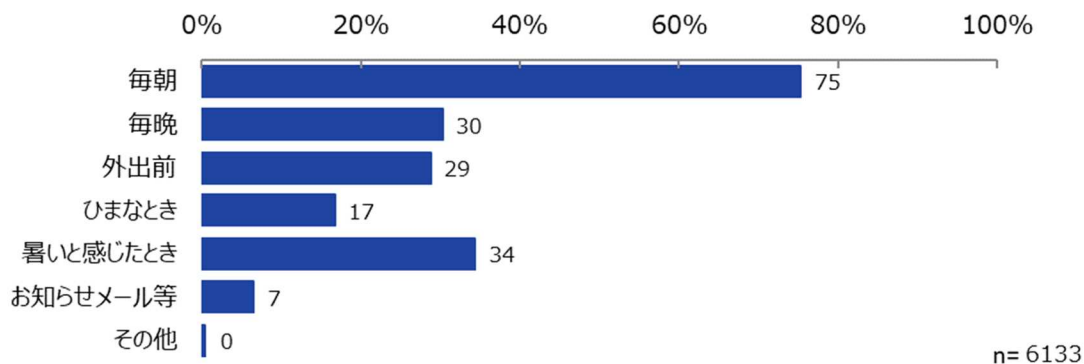


Q12 暑さの情報を確認するタイミング

夏に暑さの情報を確認する時間帯・タイミングをお答えください。(いくつでも)

7割以上の回答者が「毎朝」暑さの情報を確認している。

【WEB 調査】



※「その他」の回答：就寝前 (n=4)

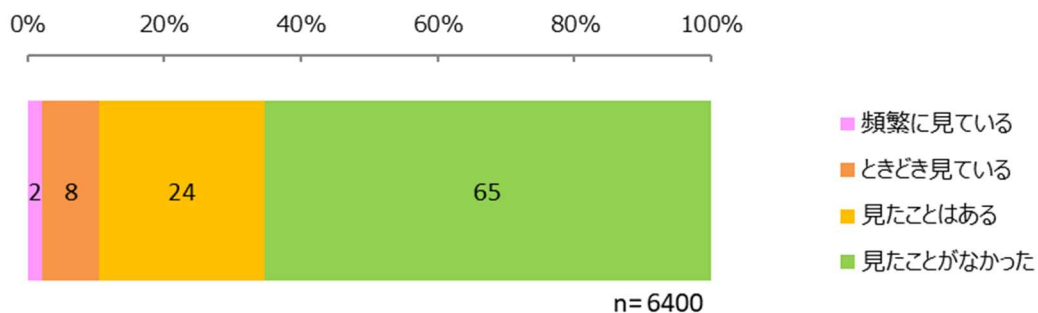
(6) 熱中症予防情報サイト

Q13 熱中症予防情報サイトの認知の程度

環境省の「熱中症予防情報サイト」を知っていますか。

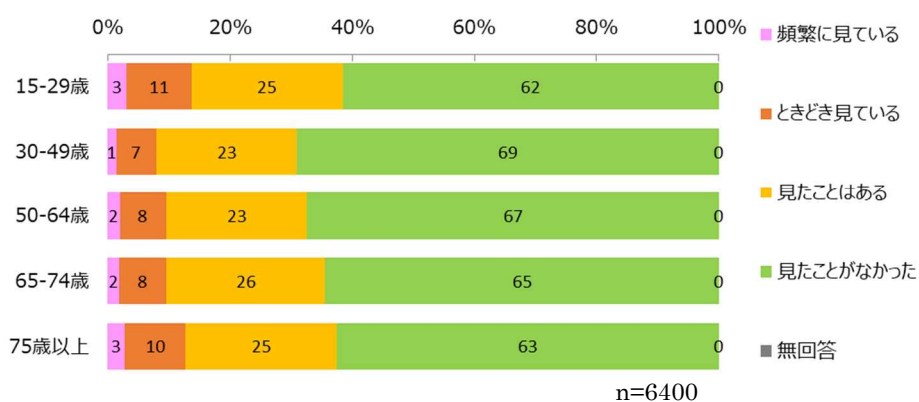
熱中症予防情報サイトを知っていた回答者は 34.6% (昨年度は 26.0%) であった。

【WEB 調査】

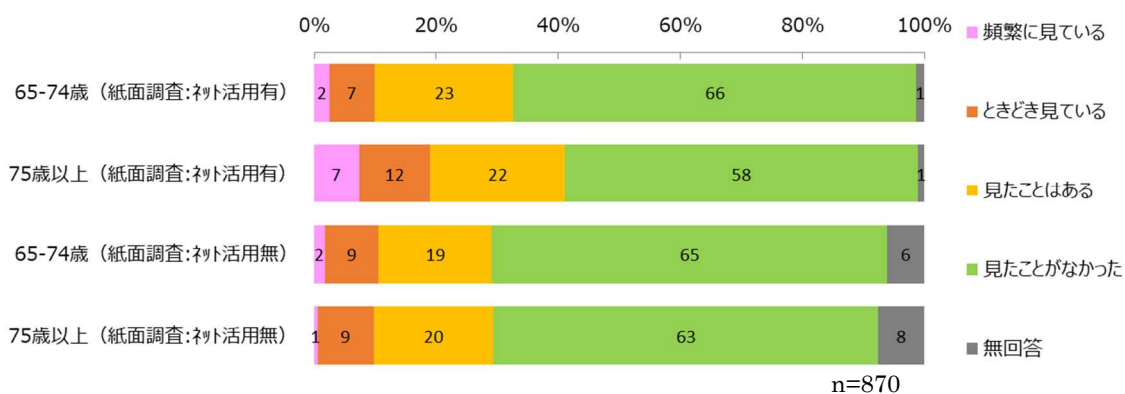


WEB 調査と紙面調査に明確な違いは見られなかった。

【WEB 調査】

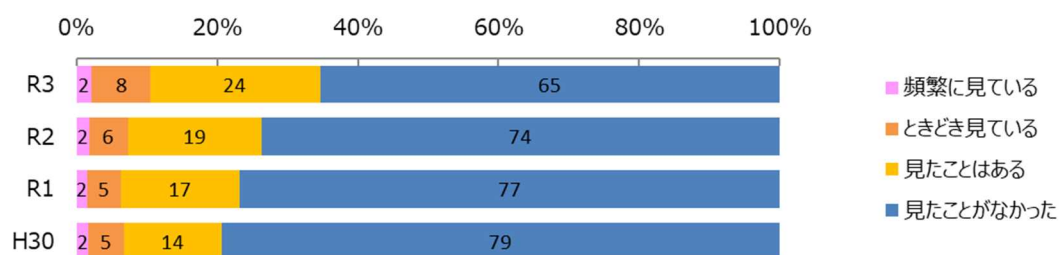


【紙面調査】



熱中症予防情報サイトを知っている回答者は増加傾向にあり、4 か年で 1 割以上上昇している。

【WEB 調査】

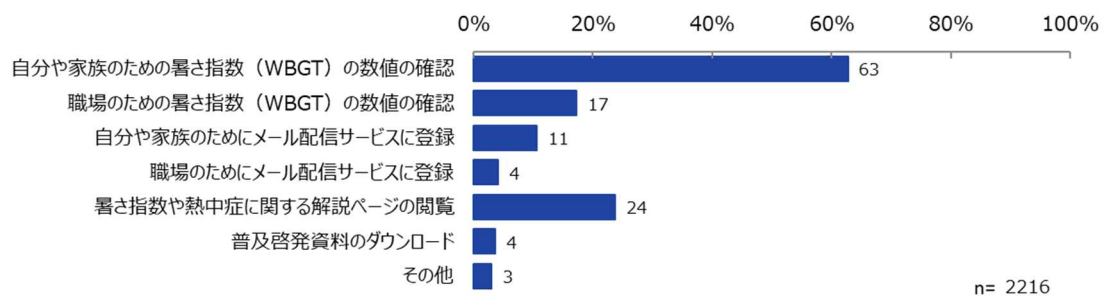


Q14 「熱中症予防情報サイト」の利用方法

「熱中症予防情報サイト」をどのように利用しましたか。(いくつでも)

「自分や家族のための暑さ指数の確認のために利用している」が最も多く 6 割程度であった。次いで「暑さ指数や熱中症に関する解説ページの閲覧」が 2 割程度であった。

【WEB 調査】



※「その他」の回答：見ただけ (n=12)

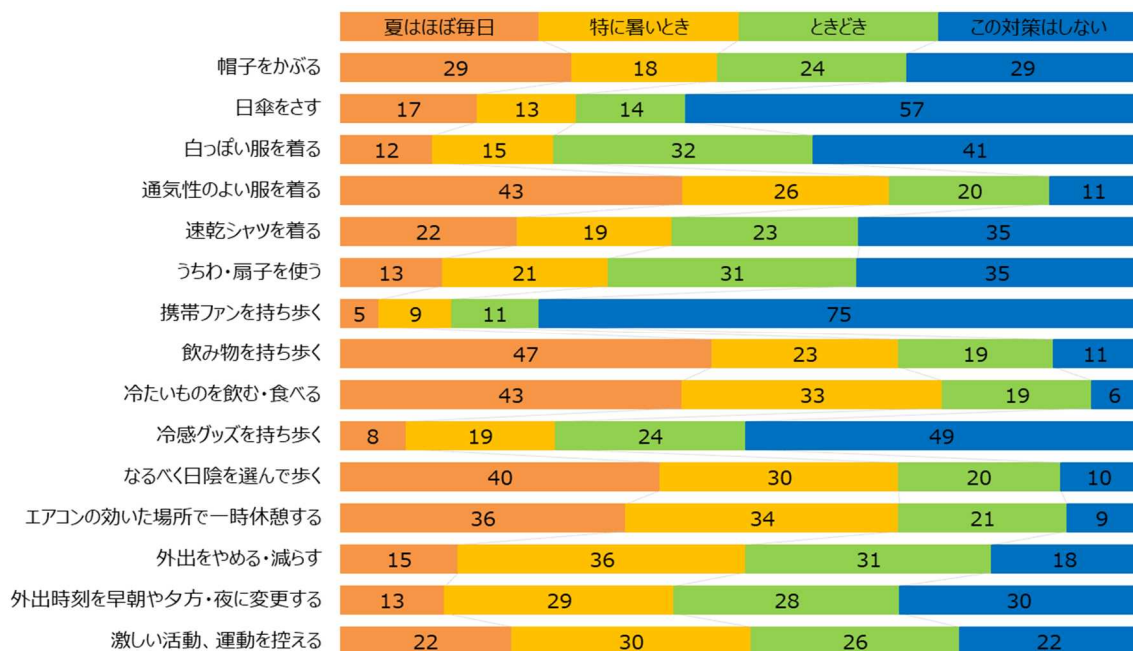
(7) 暑さ対策について

Q15 屋外で実施している暑さ対策と頻度

あなたが夏に普段屋外で行っている暑さ対策とその頻度をお答えください。

「通気性の良い服の着用」、「飲み物の携帯」、「冷たいものの飲食」、「なるべく日陰を歩く」、「エアコンの効いた場所でひと休み」などで 9 割以上の回答者が実施していた。

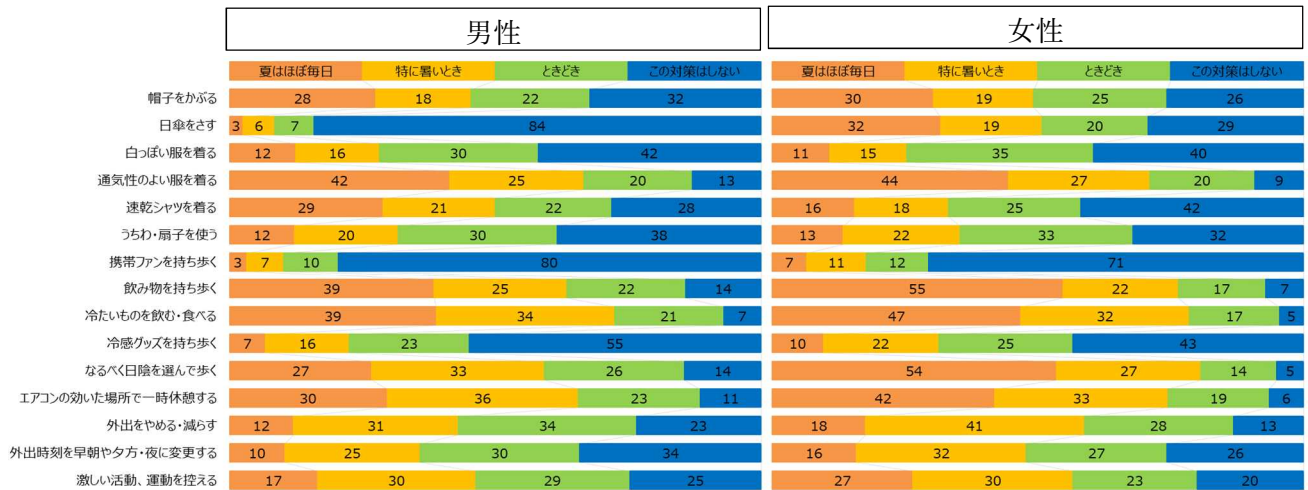
【WEB 調査】



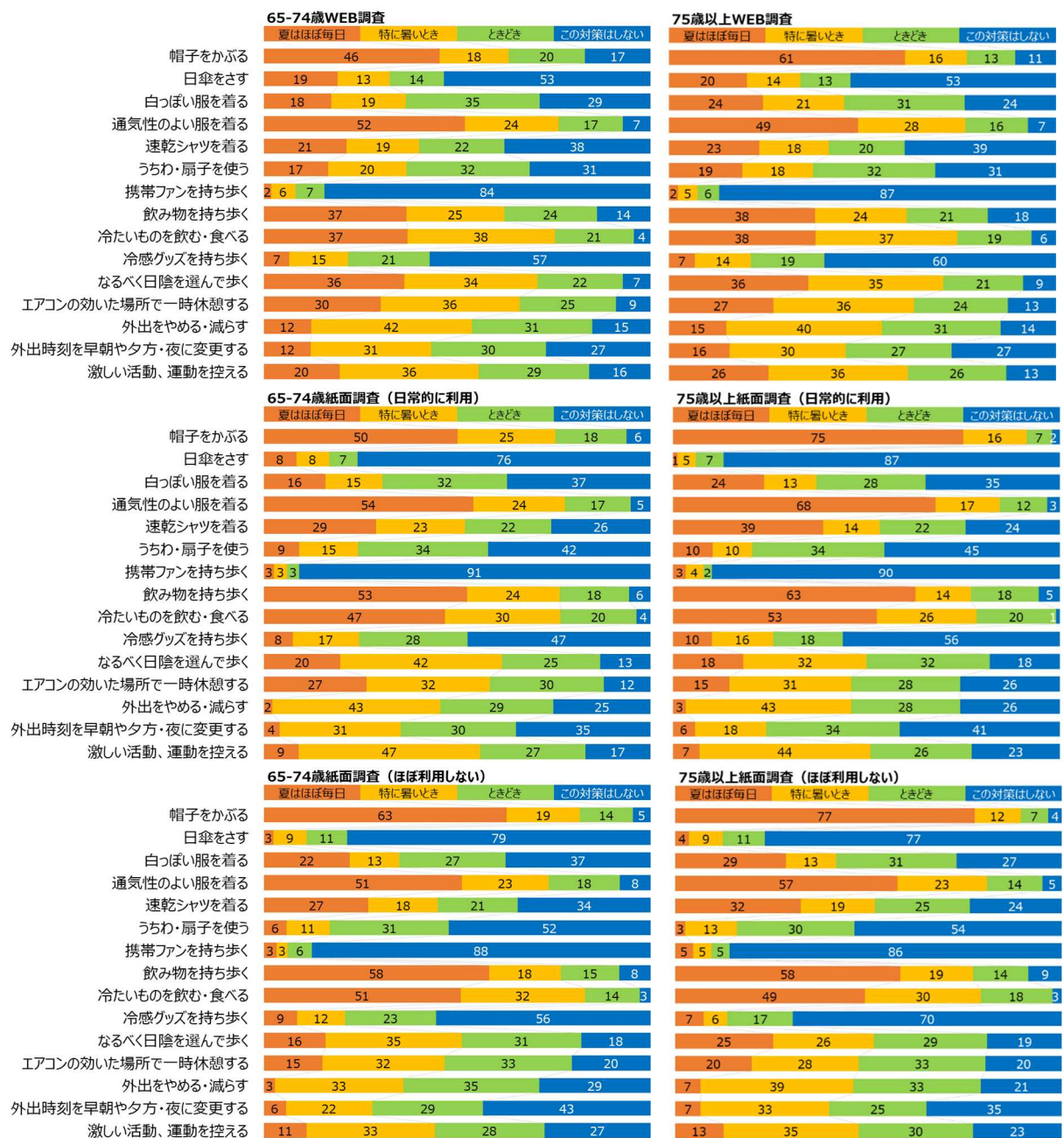
※「その他」の回答： シャワーを浴びる (n=17)、車移動にする (n=11)

男女による違いを詳細に見ると、女性の方が全体的に暑さ対策行動を積極的にとっており、特に「日傘をさす」「日陰を選んで歩く」で大きく異なり、女性の方が積極的に日射暴露を回避していることがわかる。

【WEB 調査】

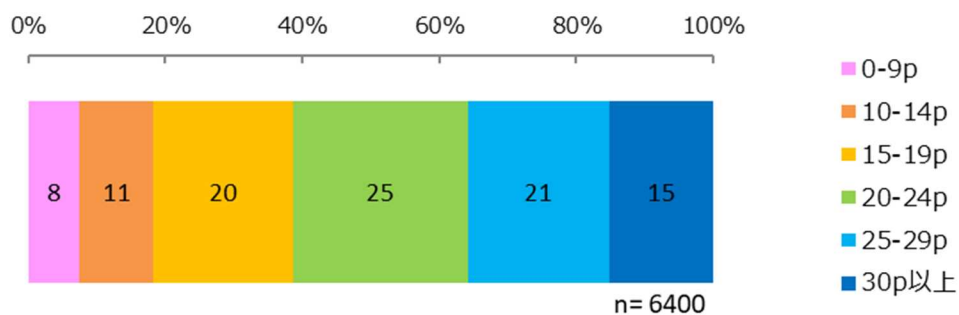


WEB 調査と紙面調査のインターネットを日常的に利用する方とほぼ利用していない方で比較したところ、各対策の傾向は WEB 調査と紙面調査に大きな違いは見られなかった。



実施の頻度について得点化し、15個の対策を総合得点化した。「夏はほぼ毎日」であれば3点、「特に暑いとき」であれば2点、ときどきであれば1点とし、各回答者の総合得点を算出した。

【WEB 調査】



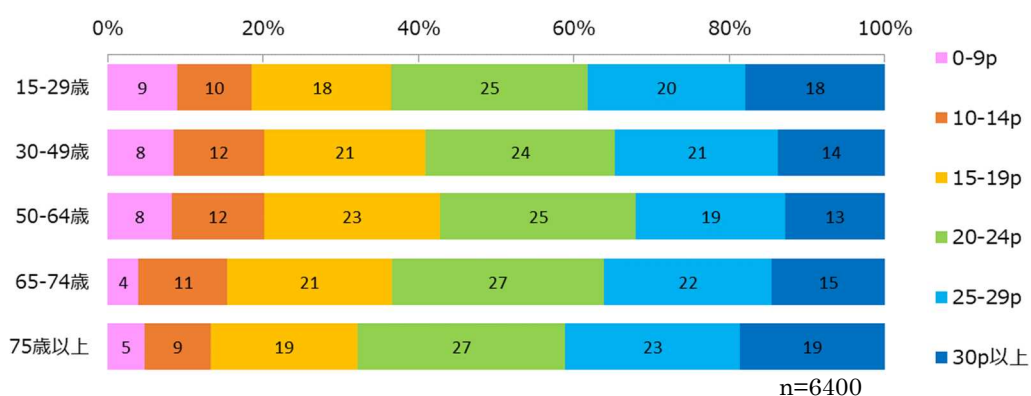
実施頻度の得点は年々増加傾向にある。

【WEB 調査】

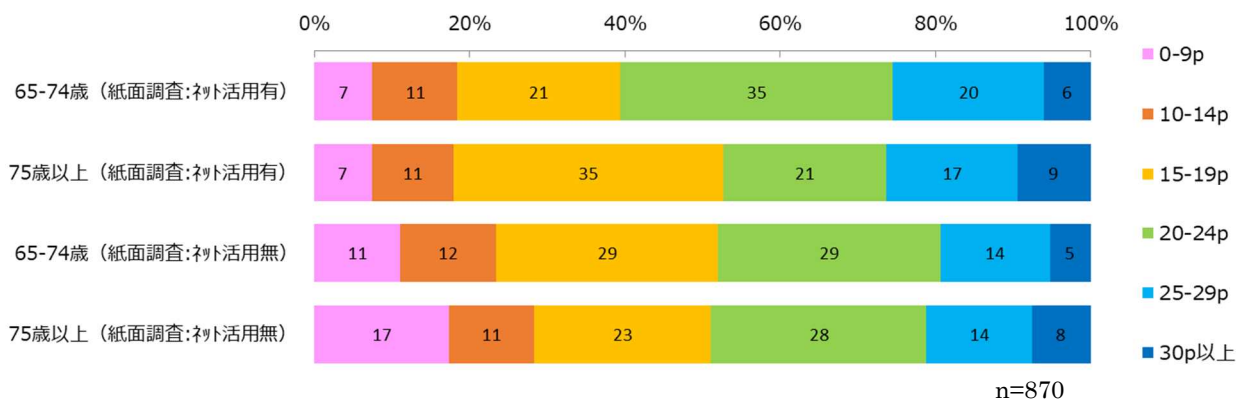


紙面調査のインターネットをほぼ利用していない方の実施頻度の得点が低くなる傾向にあった。

【WEB 調査】

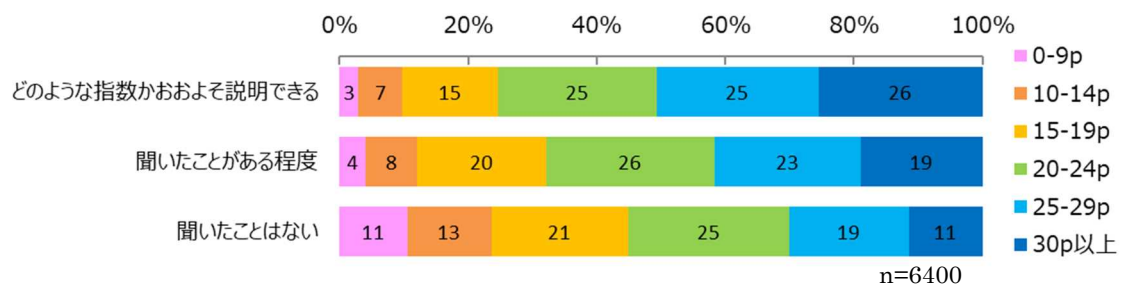


【紙面調査】



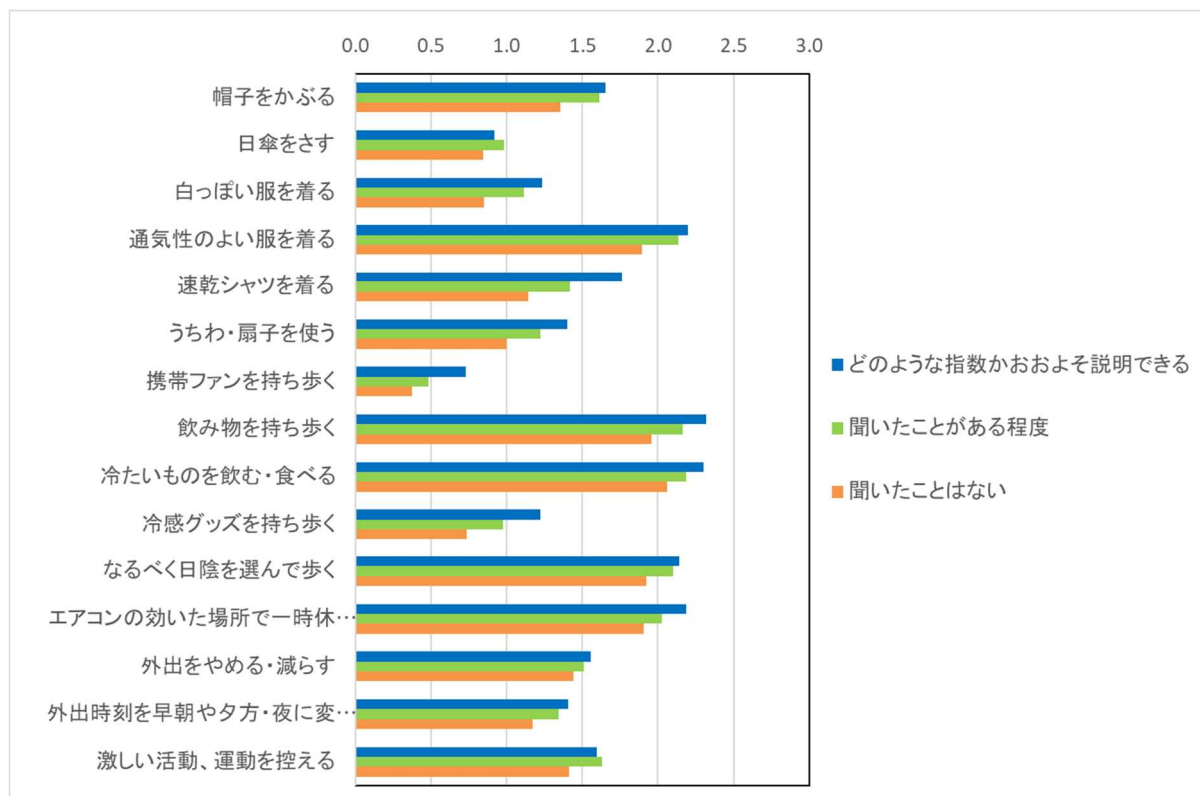
暑さ指数（WBGT）の認知度（Q8）との関係を確認すると、暑さ指数を知っている方が対策実施の総合得点が高い傾向にあった。

【WEB 調査】



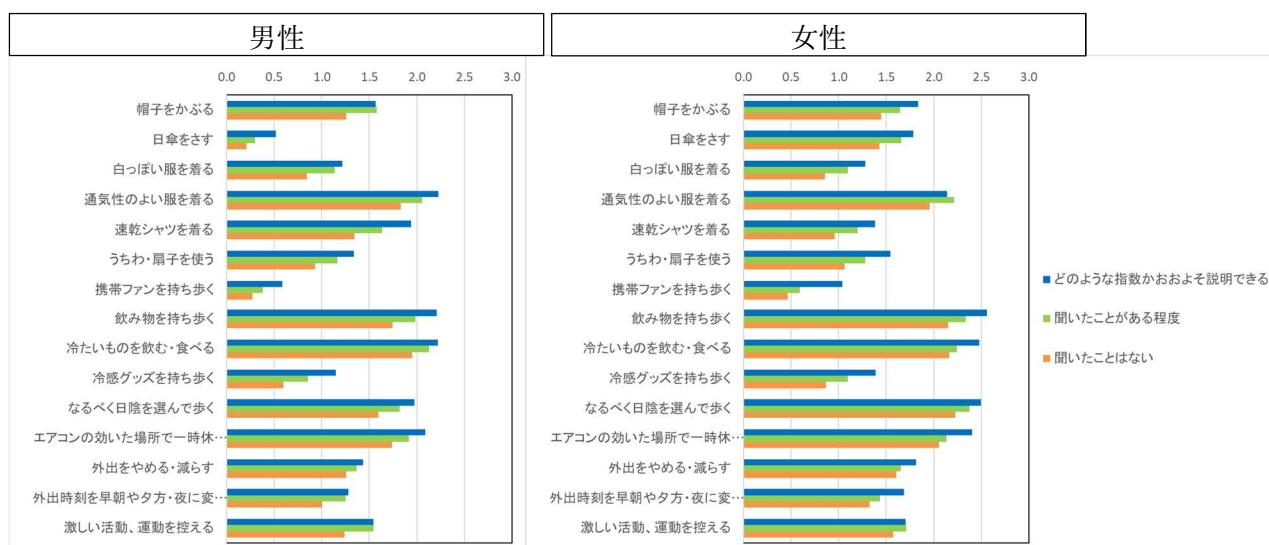
暑さ指数（WBGT）による違いを詳細に見るため、各対策の平均得点を集計した。ほぼすべての対策で暑さ指数（WBGT）を知っている方の得点が高くなる傾向が見られた。

【WEB 調査】



男女別でも同様の傾向が見られた。

【WEB 調査】

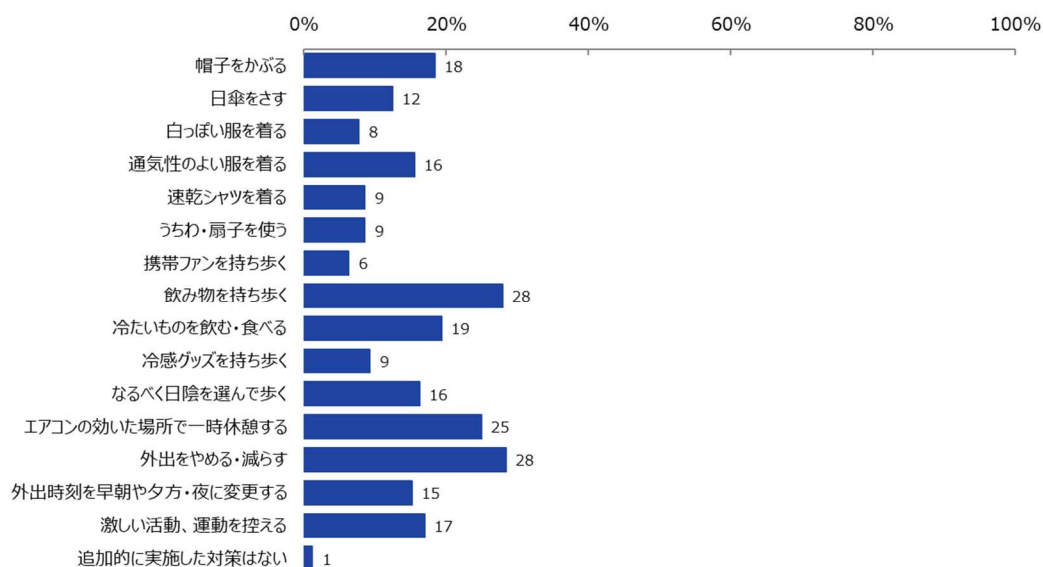


Q16 追加的に実施した暑さ対策

前問で「夏はほぼ毎日」「特に暑いとき」「ときどき」と回答した暑さ対策のなかで、熱中症警戒アラートの発表を受けて、追加的に実施した暑さ対策行動をお答えください。（いくつでも）

「外出をやめる・へらす」が最も多く3割程度、次いで「飲み物を持ち歩く」が3割程度、「エアコンの効いた場所で一時休憩をする」が2割以上であった。

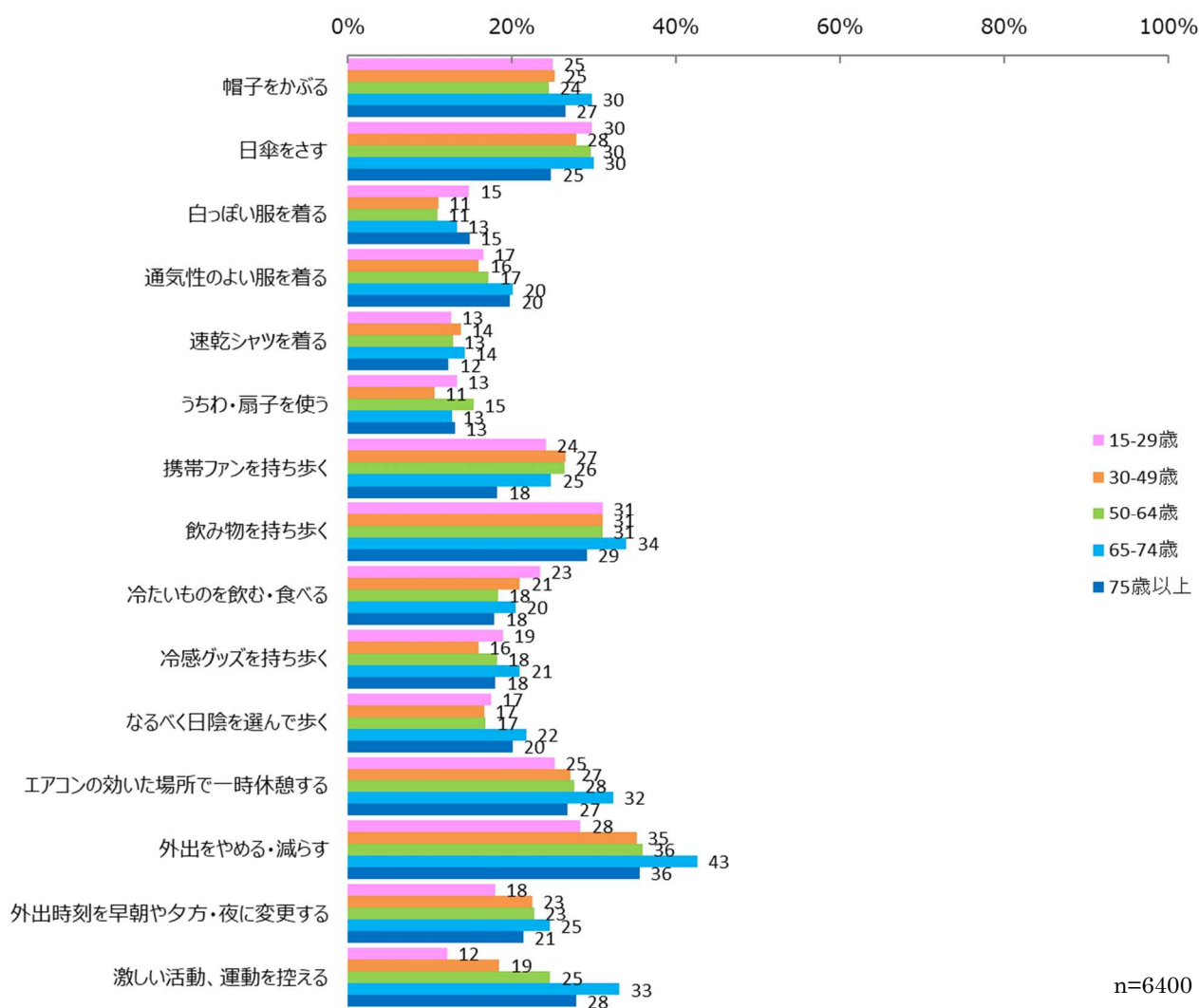
【WEB 調査】



n= 6400

年齢別に大きな違いは見られなかった。

【WEB 調査】

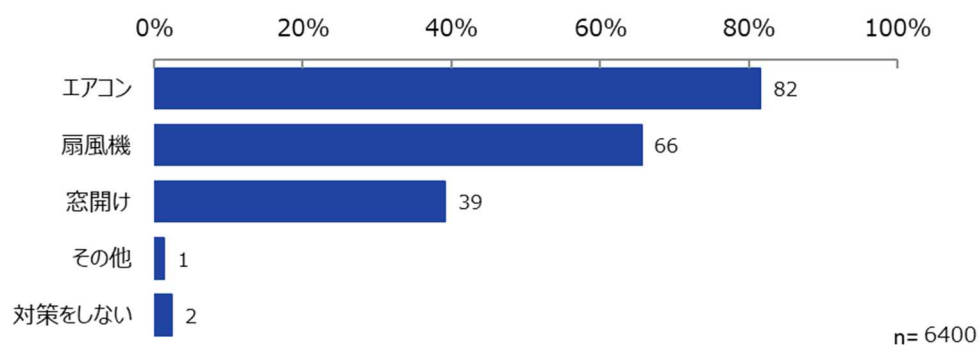


Q17-1 屋内の日中の暑さ対策

あなたが夏に「普段（平日）、起きているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」をお答えください。（いくつでも）

「エアコン」が8割程度、扇風機は7割程度であった。

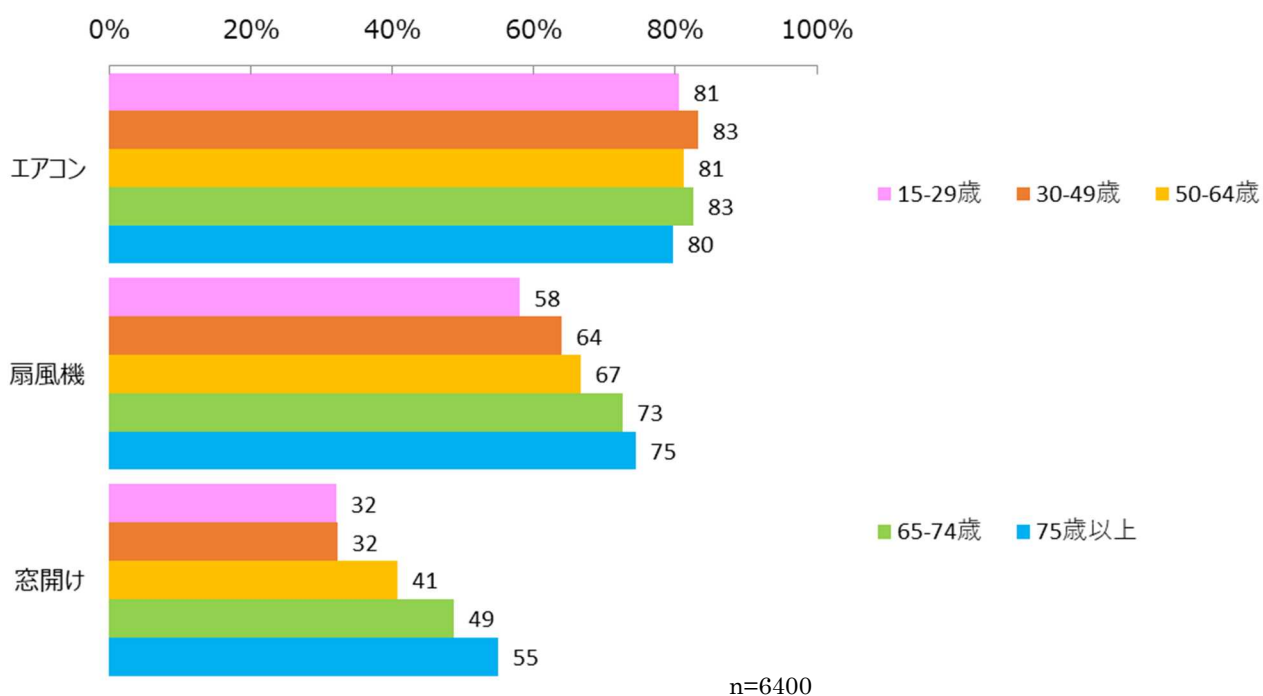
【WEB 調査】



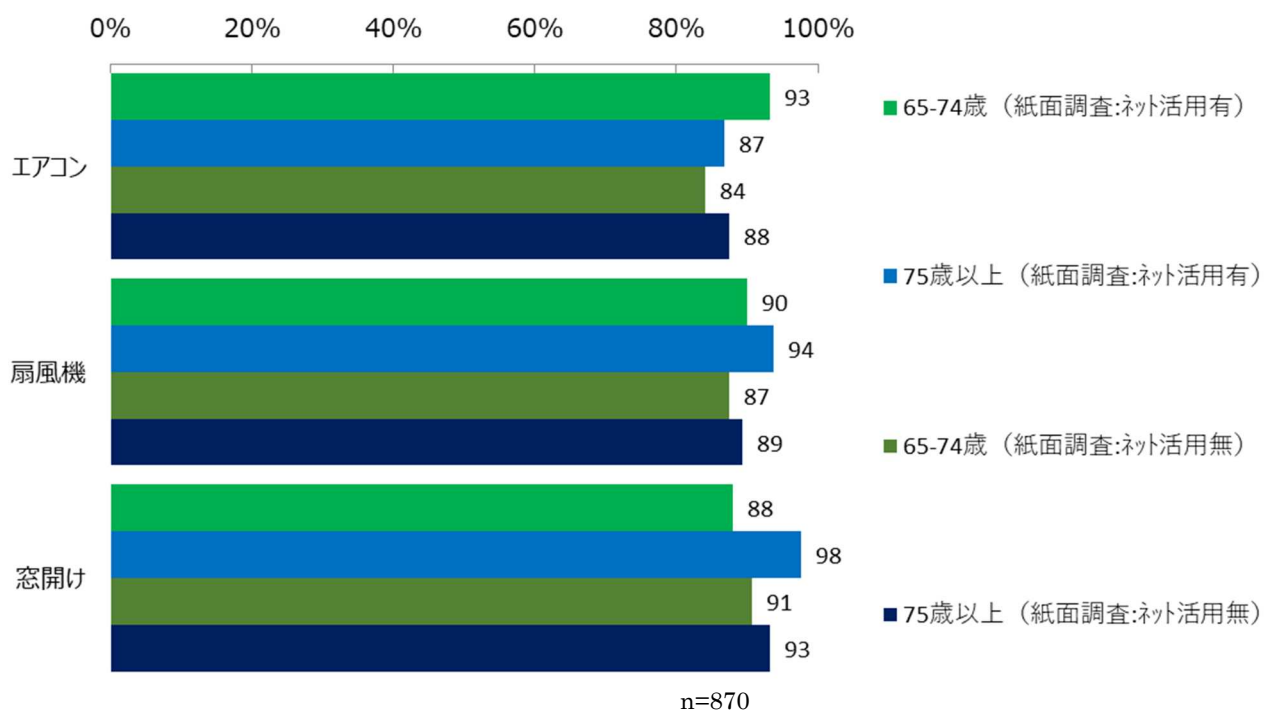
※「その他」の回答：冷感グッズの使用（n=8）、水・氷枕（n=3）

年代別に見ると、エアコンの使用ではほとんど違いが見られず、扇風機と窓開けは年代が高くなるほど多くなる傾向が見られた。紙面調査の方が扇風機、窓開けを実施している傾向が見られた。

【WEB 調査】

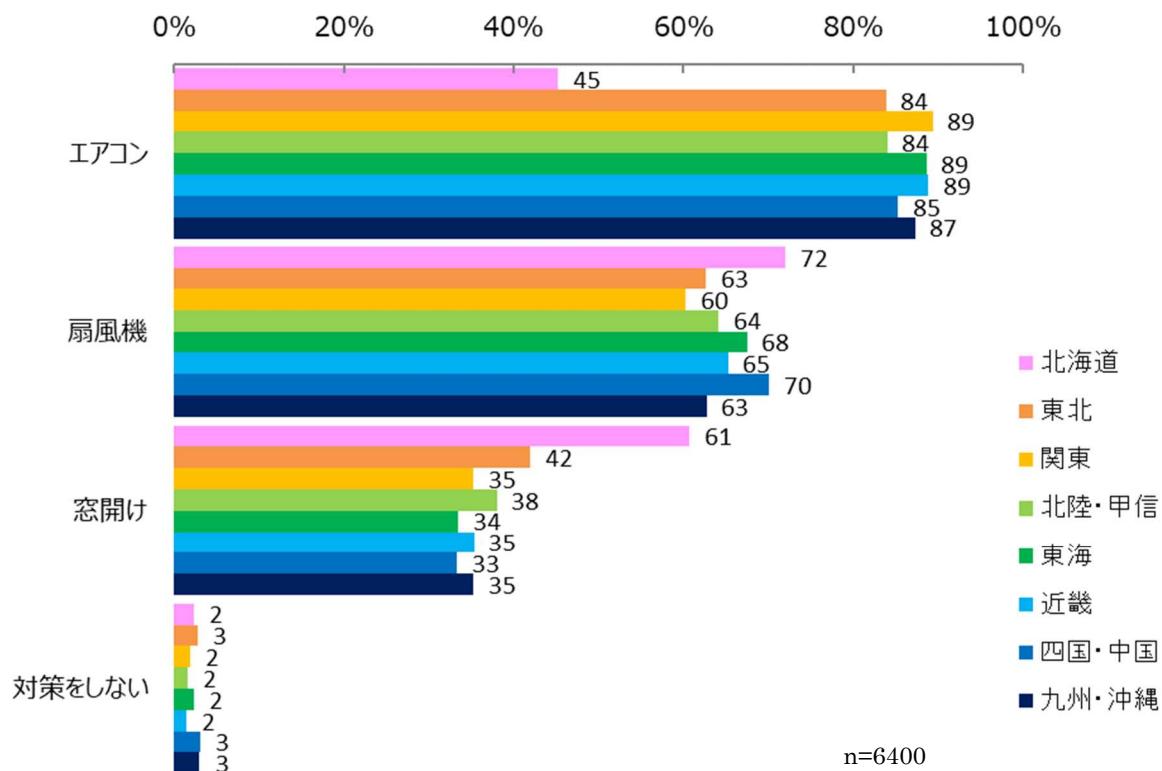


【紙面調査】



地域別に見ると、エアコンの使用では北海道が最も少なく他地域と比べ半分程度であった。窓開けは北海道が最も多く他地域と比べ 1.5 倍程度となっていた。

【WEB 調査】

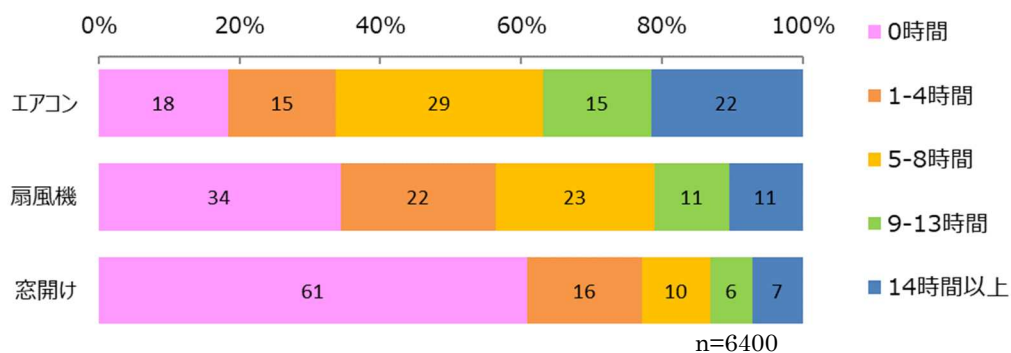


Q17-2 屋内の日中の暑さ対策の使用時間

あなたが「普段（平日）、起きているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」について、1日当たりの平均的な利用時間（真夏の暑さが厳しい期間を想定してください）をお答えください。

2割程度が「エアコン」を「14時間以上」を使用していた。

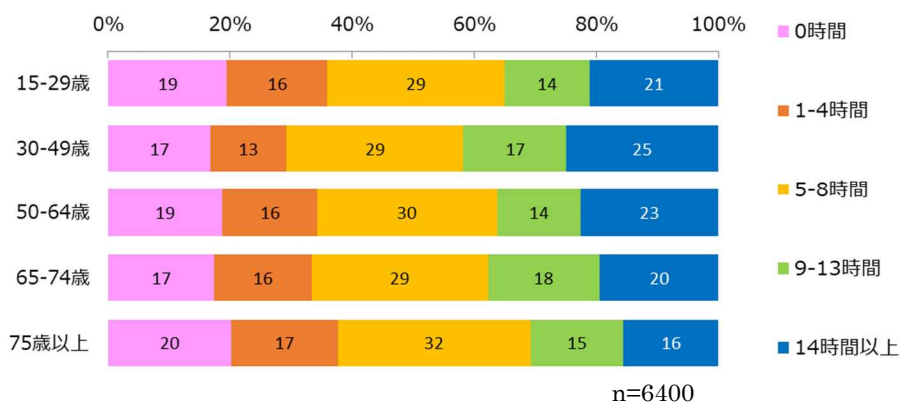
【WEB 調査】



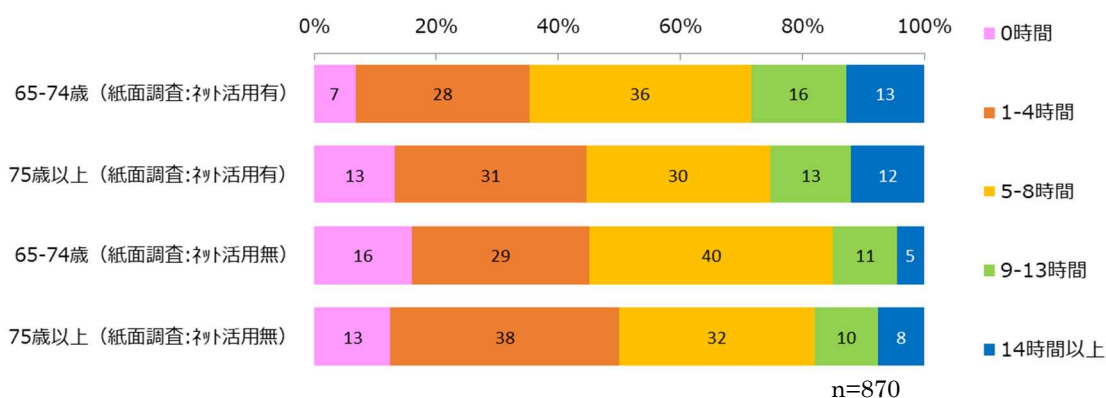
エアコンの使用時間を年代別に比較したところ、日中エアコンをつけっ放しにしている（14時間以上使用している）回答者は年代が高くなるほど短くなる傾向が見られた。

また、紙面調査の結果はWEBにくらべて時間が短く、特にインターネットを活用していない方の14時間以上の使用時間が短くなっていた。

【WEB 調査】

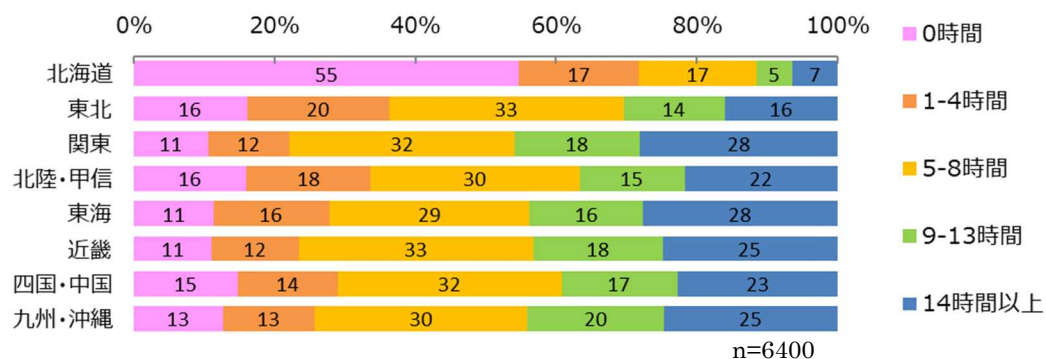


【紙面調査】



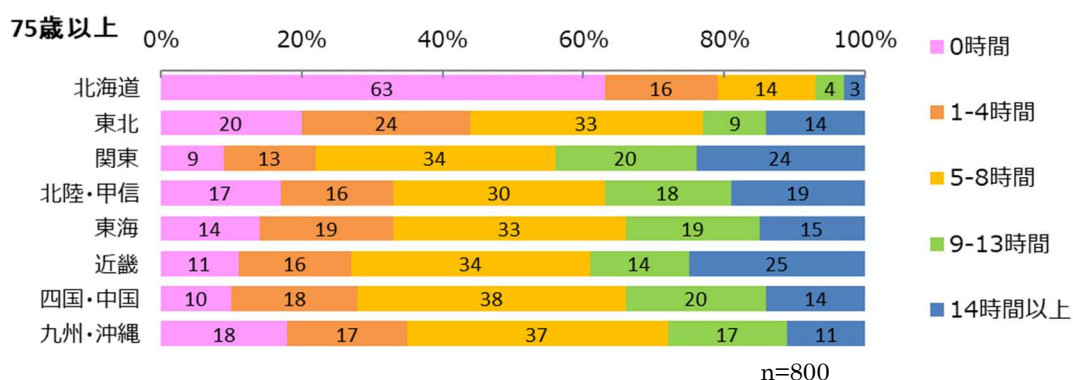
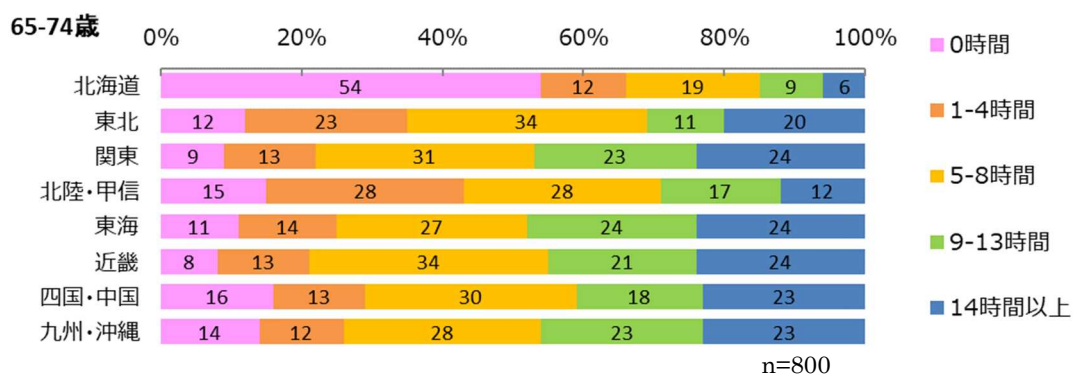
地域別に比較したところ、日中エアコンをつけっ放しにしている（14 時間以上使用している）回答者は北海道が最も少なく、次いで東北地方が少なくなっていた。

【WEB 調査】



65-74 歳（前期高齢者）と 75 歳以上（後期高齢者）高齢者を地域別に比較したところ、全体の傾向と違いは見られなかったが、後期高齢者の方が 14 時間以上使用している回答者が少ない傾向が見られた。

【WEB 調査】

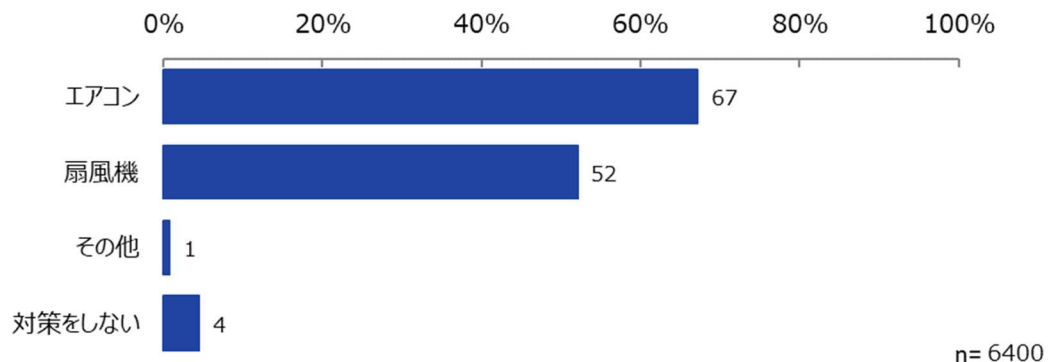


Q18-1 屋内の就寝時の暑さ対策

あなたが夏に「普段（平日）、寝ているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」をお答えください。（いくつかでも）

「エアコン」が7割程度、扇風機は5割程度であった。

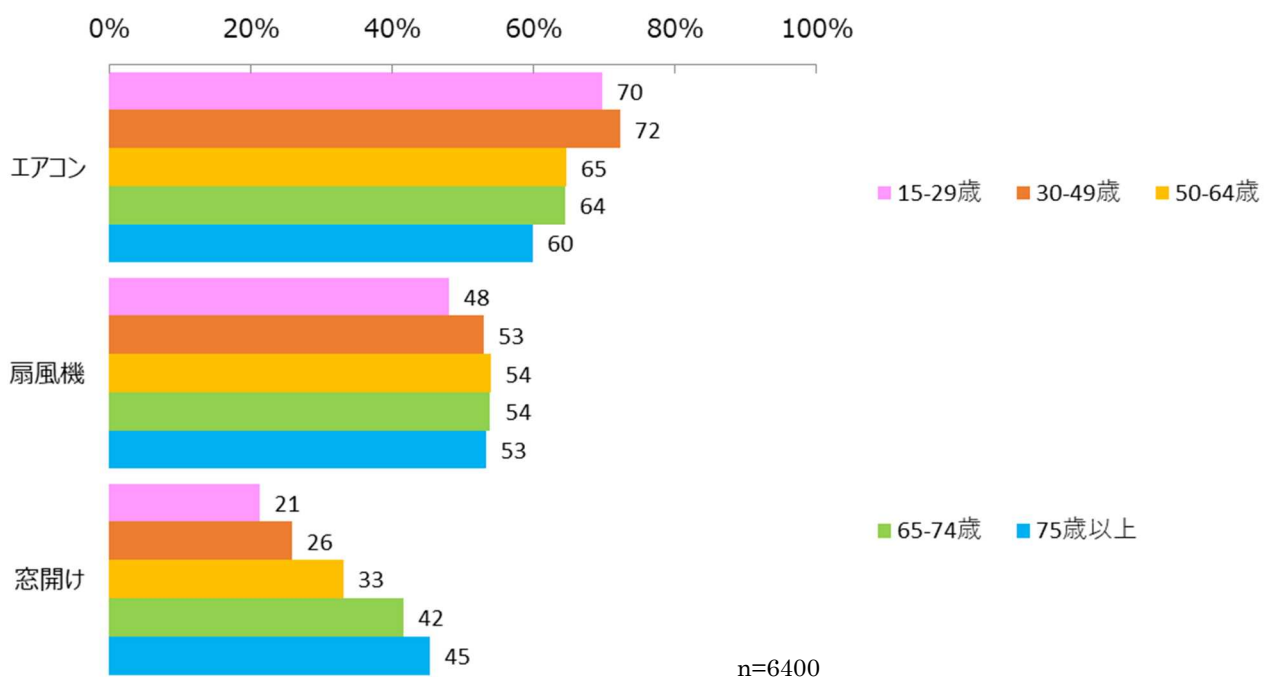
【WEB 調査】



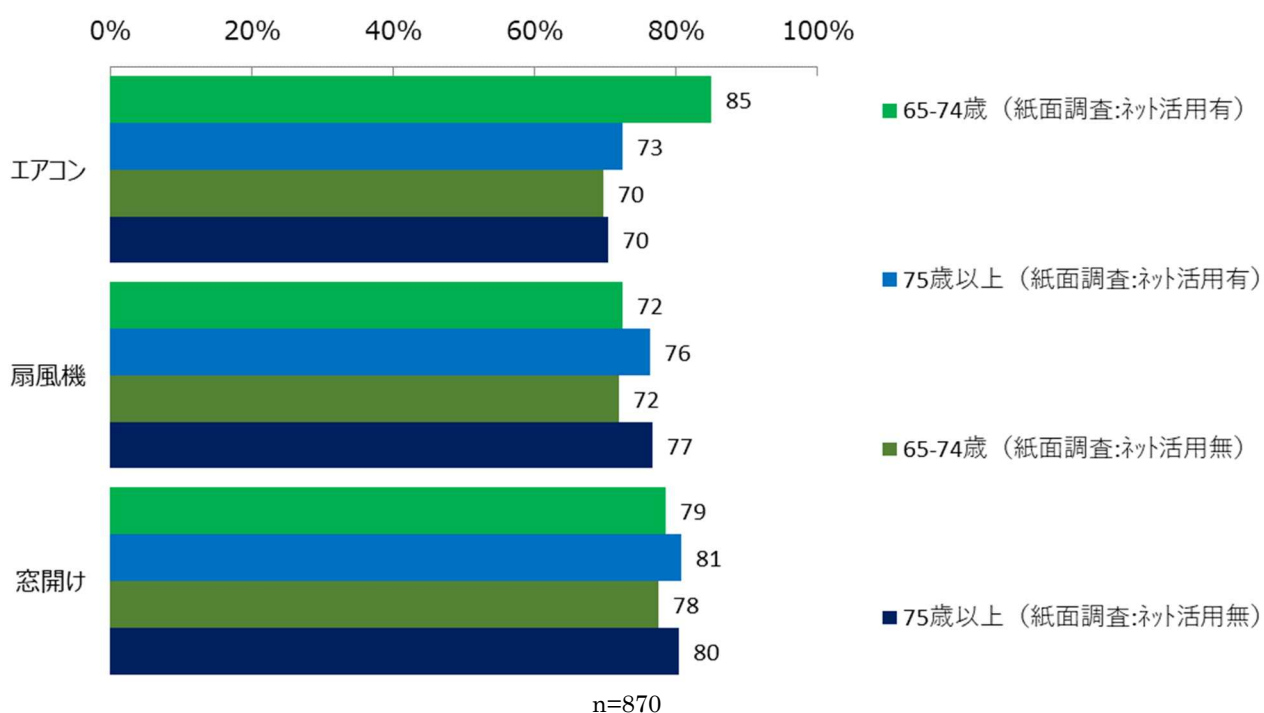
※「その他」の回答：冷感グッズの使用（n=11）

年齢別に比較したところ、年齢が高くなるほどエアコンの使用が少なくなる傾向が見られ、逆に窓開けは年代が高くなるほど多くなる傾向が見られた。紙面調査の方が扇風機、窓開けを実施している傾向が見られた。

【WEB 調査】

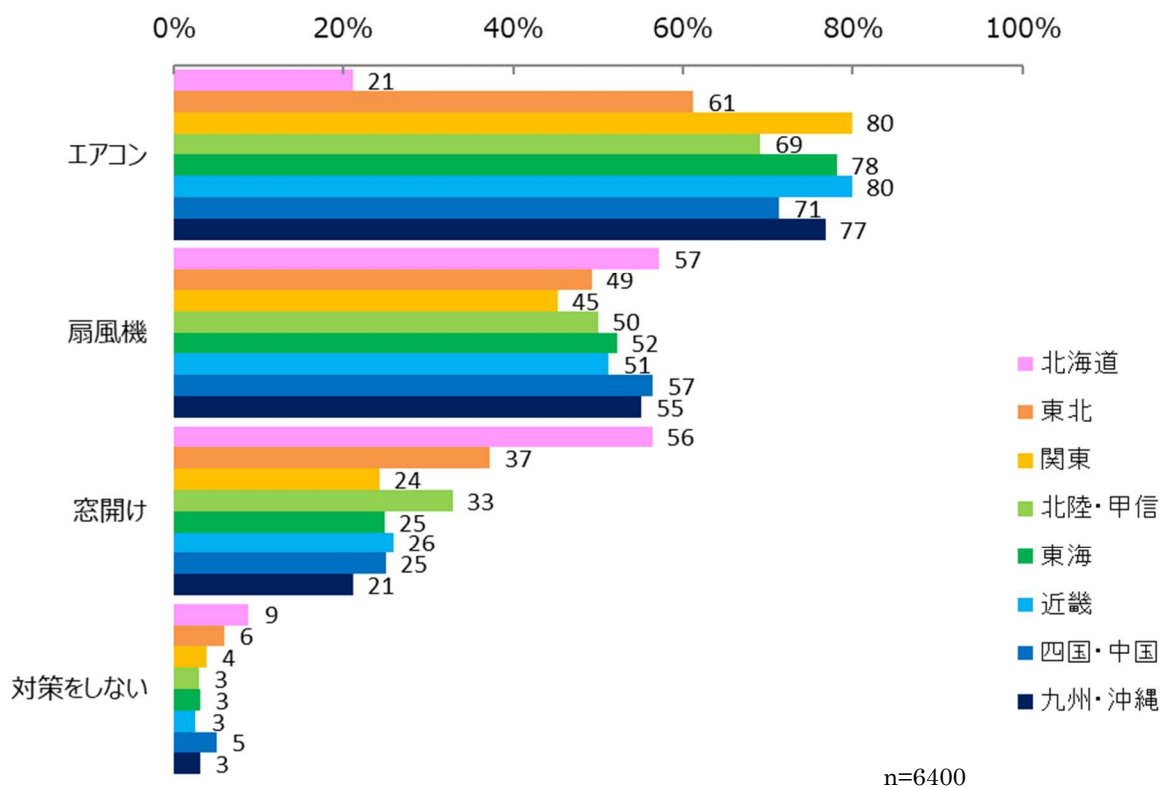


【紙面調査】



地域別に見ると、エアコンの使用では北海道が最も少なく他地域と比べ3分の1から4分の1程度であった。窓開けは北海道が最も多く他地域と比べ2倍程度となっていた。

【WEB 調査】

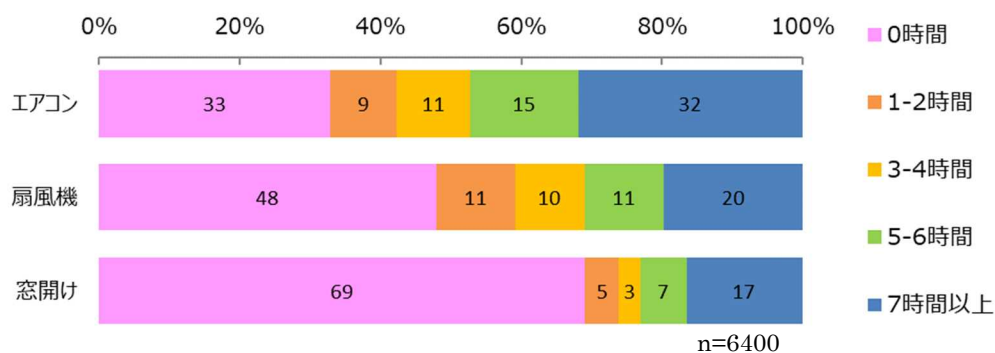


Q18-2 屋内の就寝時の暑さ対策の使用時間

あなたが「普段（平日）、寝ているときに「屋内（ご自宅）」で利用している暑さ対策」について、1日当たりの平均的な利用時間（真夏の暑さが厳しい期間を想定してください）をお答えください。

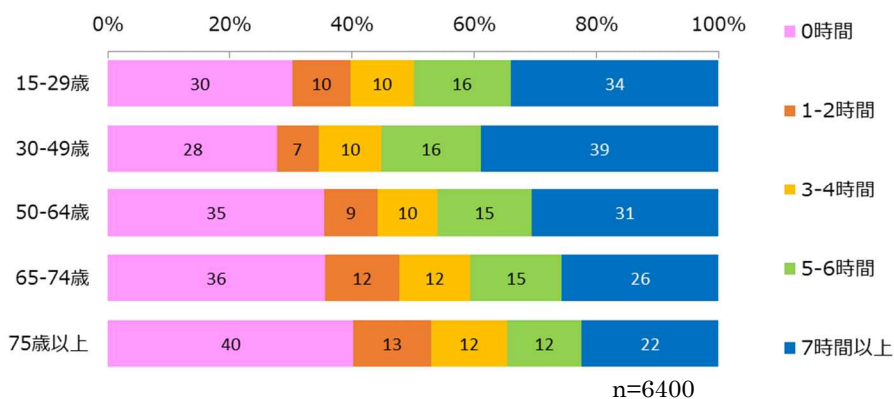
3割程度が「エアコン」を「7時間以上」を使用していた。

【WEB 調査】

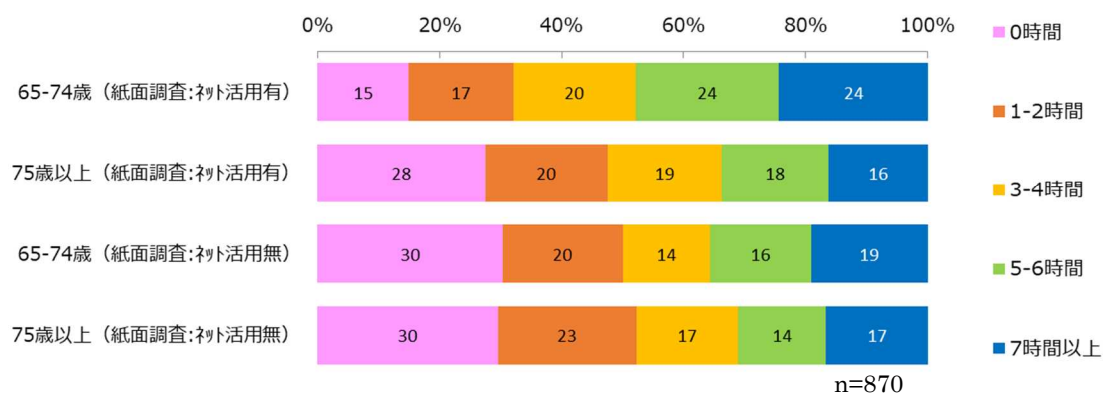


エアコンの使用時間を年代別に比較したところ、就寝中エアコンをつけっ放しにしている（7時間以上使用している）回答者は年代が高くなるほど低くなる傾向が見られた。

【WEB 調査】



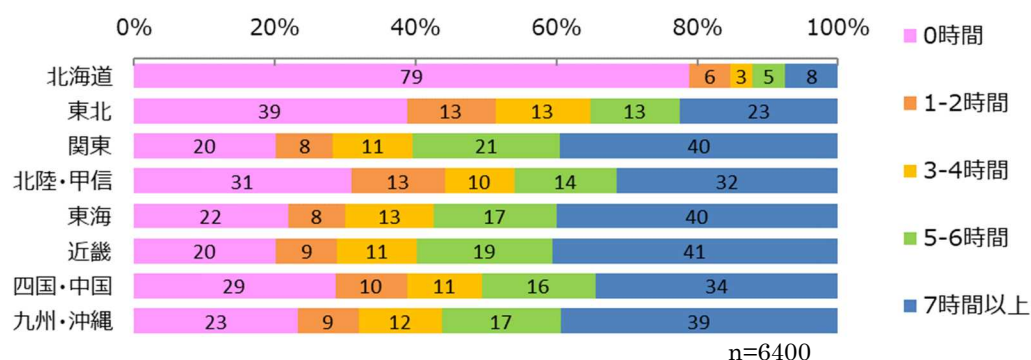
【紙面調査】



また、紙面調査の結果は一部の属性で使用時間が短くなっているが、日中で見られたような顕著な違いはみられなかった。

地域別に比較したところ、北海道、東北地方で使用時間が短かった。

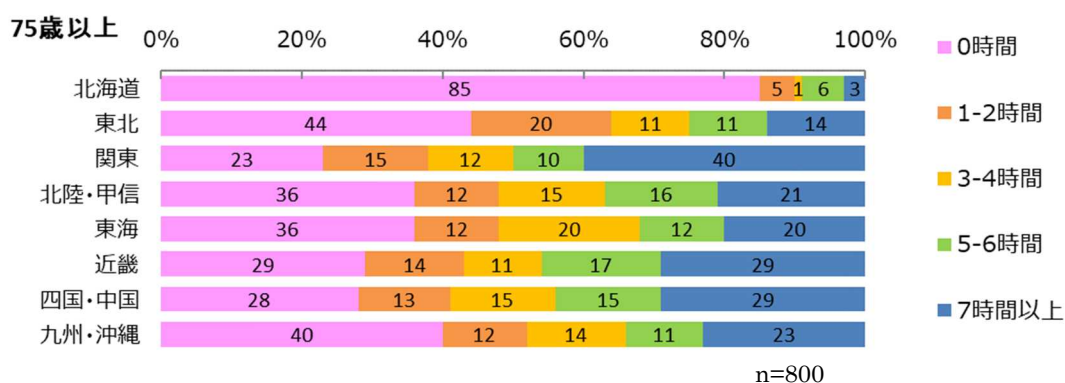
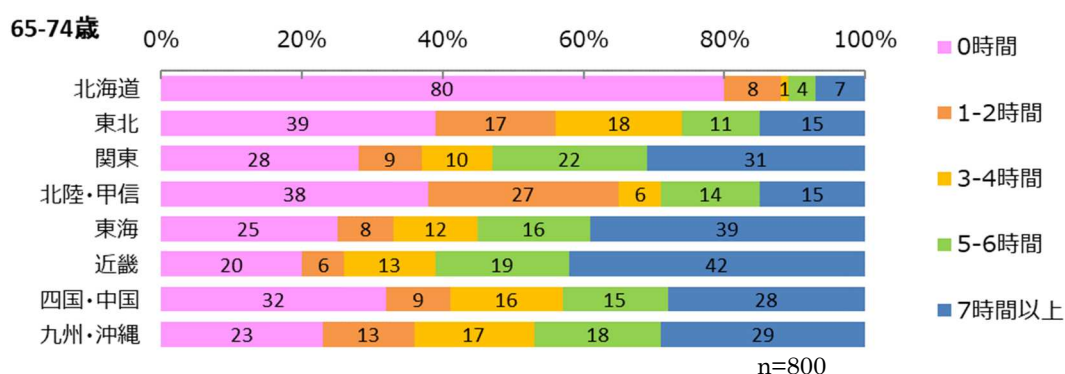
【WEB 調査】



65-74 歳（前期高齢者）と 75 歳以上（後期高齢者）高齢者を地域別に比較したところ、全体の傾向と違いは見られなかったが、後期高齢者の方が 7 時間以上使用している回答者が少ない傾向が見られた。

また、関東の後期高齢者は他の地域と比べ、比較的長い時間使用していることがわかった

【WEB 調査】



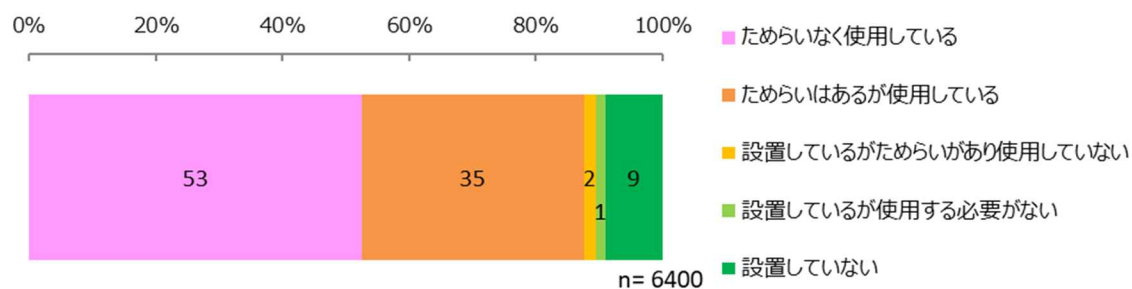
(8) エアコンの使用状況

Q19 エアコンの設置・使用状況

ご自宅でのエアコンの使用についてお答えください（一つのみ）。

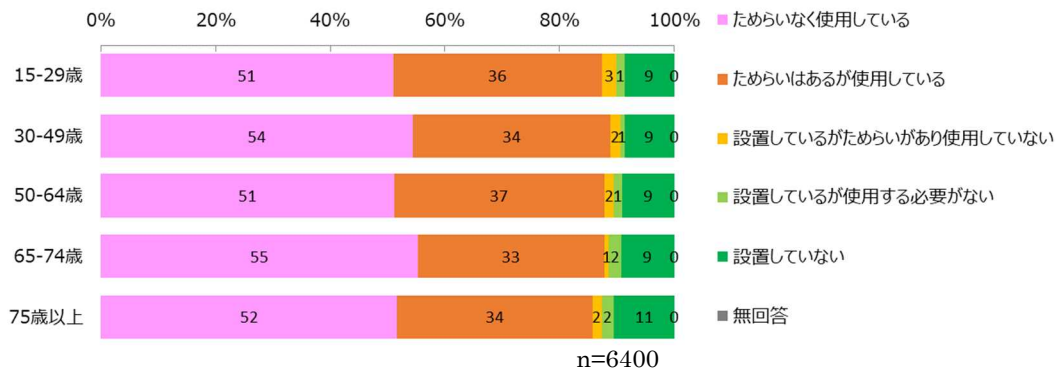
エアコンを「ためらわずに使用している」のは5割程度、「ためらいながら使用している」のは3割以上であった。「ためらいがあり使用していない」のは1.8%であった。

【WEB 調査】

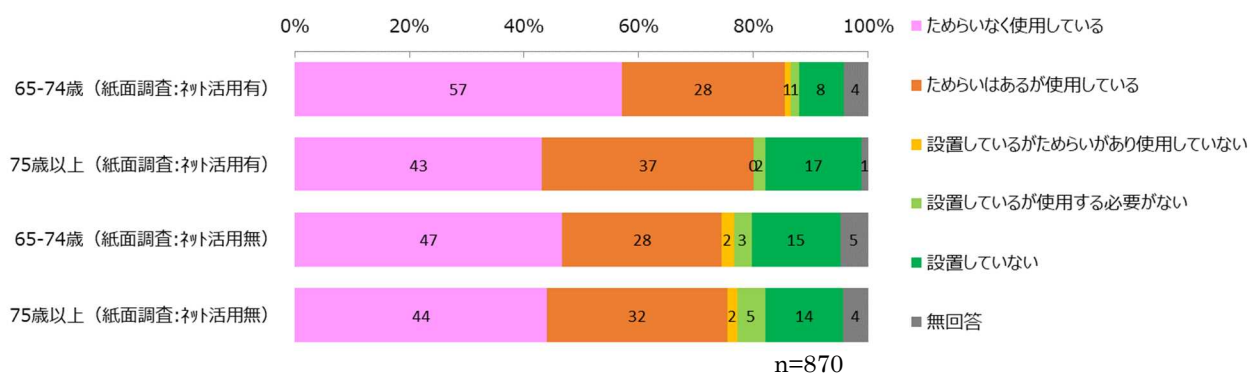


紙面調査の方のエアコンを設置していない割合が高くなっていた。

【WEB 調査】

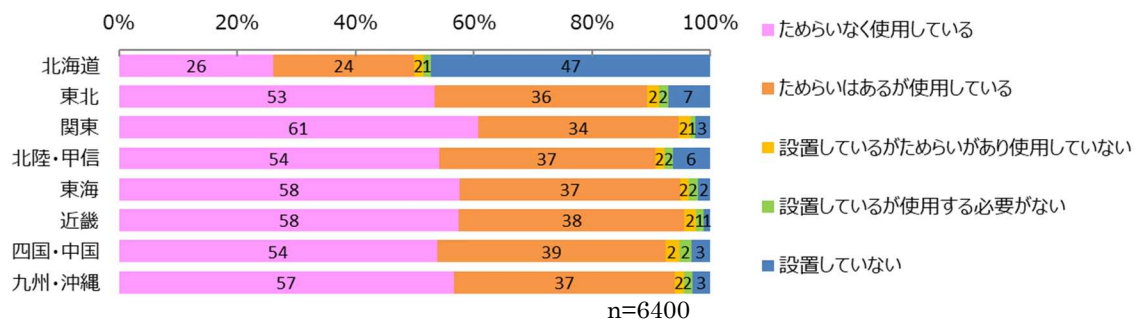


【紙面調査】



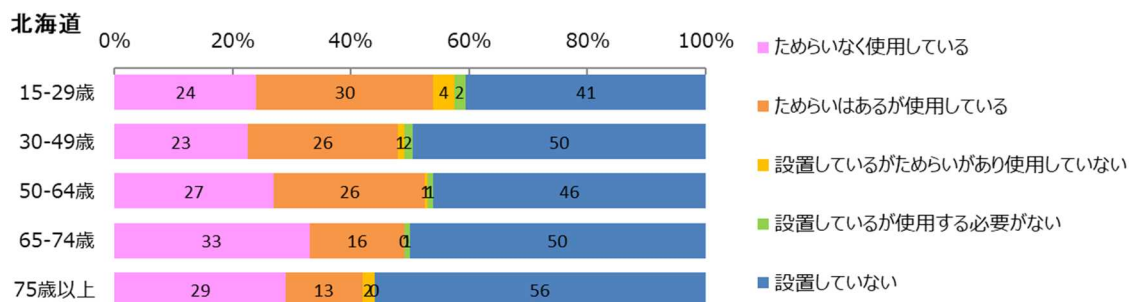
地域別に見ると、北海道を除く他地域に違いは見られなかった。北海道は約半数がエアコンを設置していないことがわかった。

【WEB 調査】



北海道におけるエアコンの設置・使用状況は、年代が高くなるほどエアコンを設置していない回答者が多い傾向がみられた。

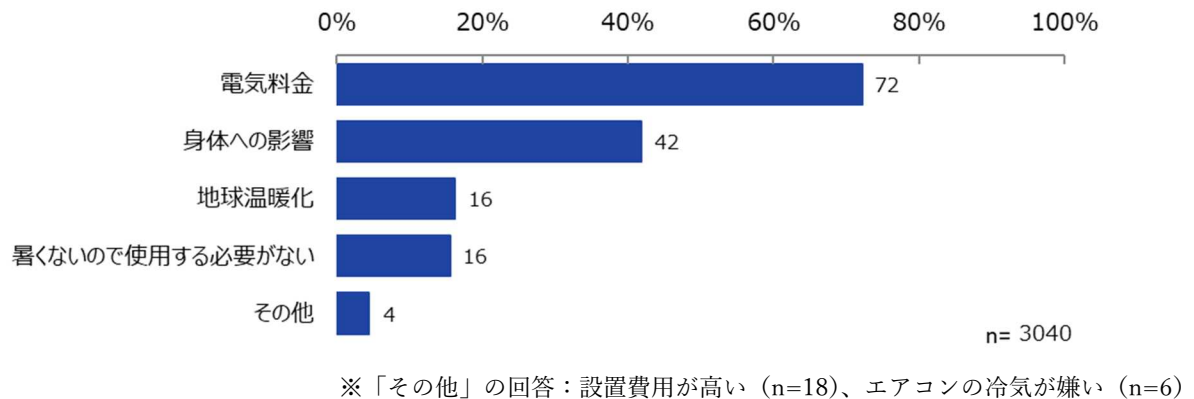
【WEB 調査】



Q20 エアコン使用をためらう・使用しない・設置していない理由
 (Q19で「ためらいがある」「使用しない」「設置していない」と回答した方のみ)
 エアコンの使用にはどのような抵抗がありますか。(いくつでも)

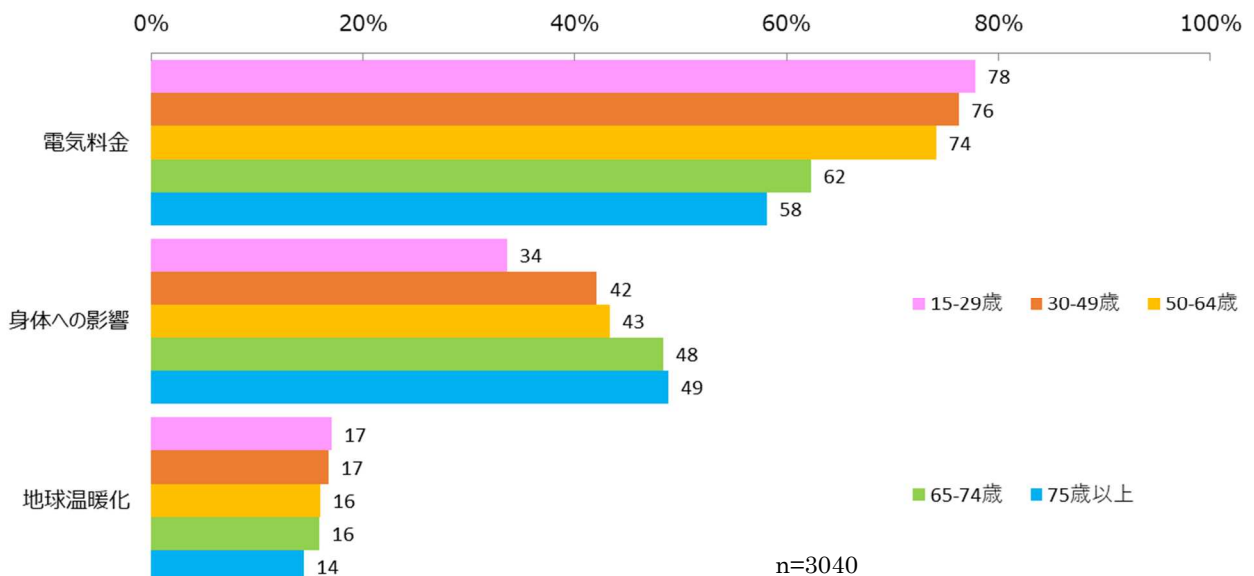
7割程度の方が、「電気料金が気になる」と回答し、4割程度が「身体への影響が気になる」と回答していた。「暑くないので使用する必要がない」は1割以上であった。

【WEB 調査】

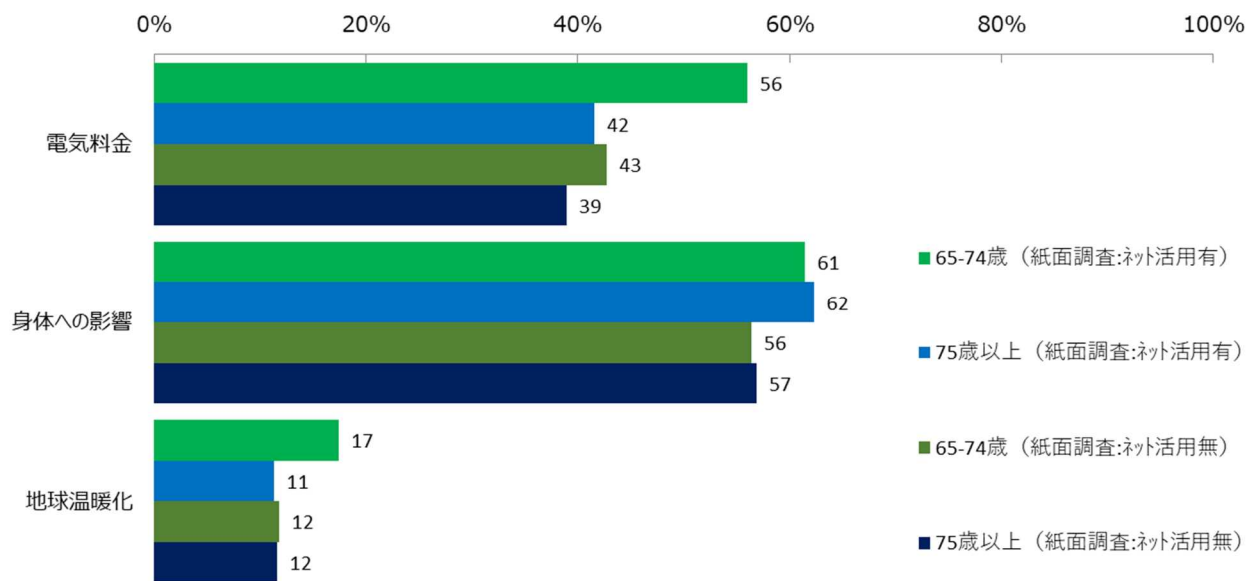


年代別に見ると、年代が高くなるほど電気料金を気にする人が少ない。身体への影響が気になるとしたのは年代が高くなるほど多く、特に紙面調査で割合が高くなっていた。

【WEB 調査】



【紙面調査】



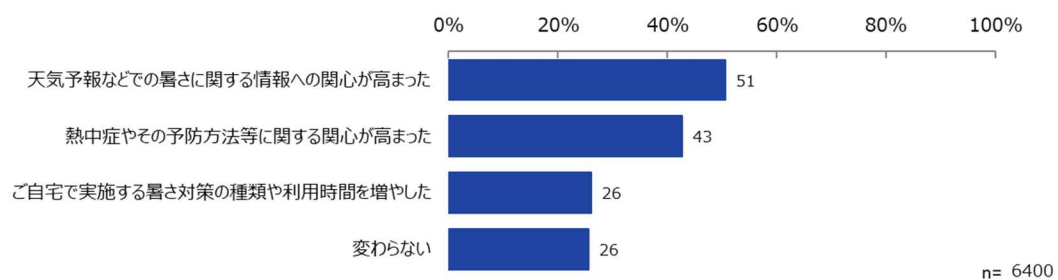
(9) 暑さに対する意識・行動変容等

Q21 暑さに対する意識・行動変容

ここ数年の夏の暑さにより、あなたの意識や行動の変化としてあてはまるものをお答えください。（いくつでも）

4~5 割程度の方が「関心が高まった」と回答しているが、実際に対策行動を増やしたのは2 割以上であった。

【WEB 調査】

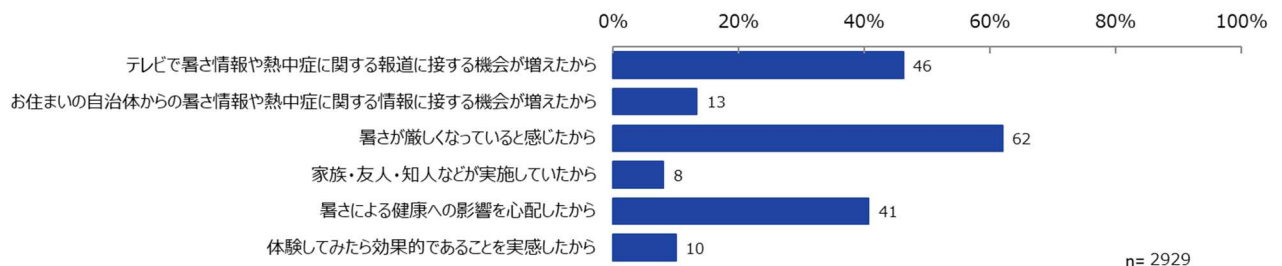


Q22 対策行動を増やした理由

あなたが実施する暑さ対策の種類や頻度を増やした理由としてあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

「暑さが厳しくなっていると感じた」、「テレビでの報道が増えた」、「暑さによる健康影響を心配した」ことなどが理由として多く挙げられていた。

【WEB 調査】



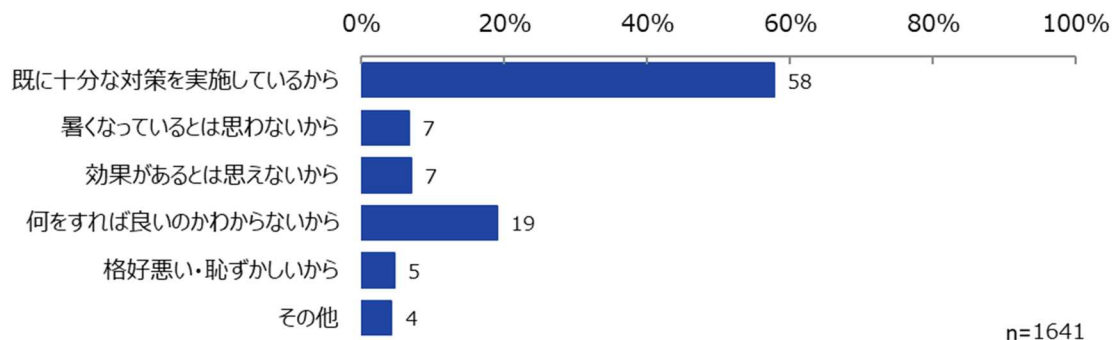
※「その他」の回答：自分または家族が熱中症になった経験から (n=6)

Q23 対策行動を増やさない理由

あなたが実施する暑さ対策行動の種類や頻度を変えない理由としてあてはまるものをお答えください。(いくつでも)

「既に十分な対策を実施している」ことが理由として最も多かった一方、「何をすれば良いかわからない」とした方も2割程度となった。

【WEB 調査】



※「その他」の回答：暑い地域に住んでない (n=3)

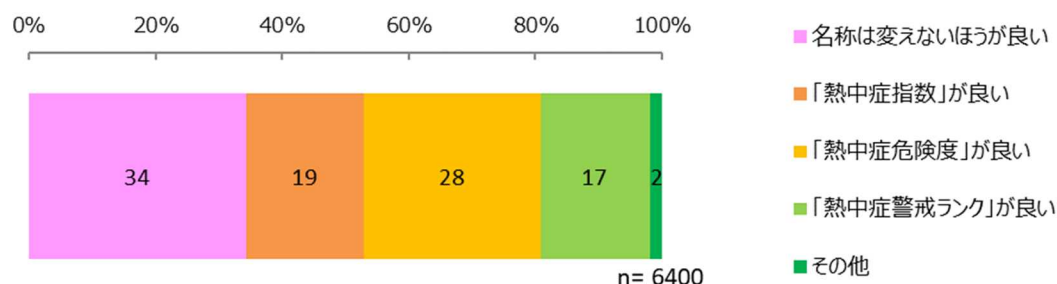
(10) 暑さ指数 (WBGT) の名称変更

Q24 暑さ指数 (WBGT) の名称変更

「暑さ指数 (WBGT)」という通称の変更について、あてはまるものをお答えください。

「暑さ指数 (WBGT)」の名称は変えない方が良くと答えた方が3割以上と最も多く、「熱中症危険度」が良いと答えた方も3割程度いた。

【WEB 調査】



※「その他」の回答：特に要望はない (n=41)

3) まとめ・考察

(1) 国民が暑さを感じている場面と時間

国民が最も暑いと感じている場面は「通勤・通学・移動」の場面であり、まちなかの一場面と考えられる。また、「通勤・通学・移動」に暑さを感じている時間は「三大都市圏」(都市部)の方のほうが「三大都市圏以外」(地方)よりも長い傾向にあることがわかった。

今後、まちなかの暑さ対策を推進していくためには、上記に加え、詳細な場所や状況を把握する必要がある。このような情報を把握することで、効果的な暑さ対策の実施に資する情報を提供していくことが必要である。

(2) 高齢者の屋内での暑さ対策について

Q17-1 (屋内の日中の暑さ対策)、Q18-1 (屋内の就寝時の暑さ対策) といった、暑さ対策を問う項目では、紙面調査の方のエアコン、扇風機、窓開けを実施している割合が特に高い傾向にあった。このことから、紙面調査の高齢者すなわち一般的な高齢者は屋内において暑さ対策を積極的に実施していると考えられる。しかしながら、一般的な高齢者の屋内の熱環境が適切かは明らかでなく、例えば気温 31℃ 以上の酷暑環境であっても扇風機や窓開けで対応している可能性がある。

Q20 (エアコン使用をためらう・使用しない・設置していない理由) では、紙面調査の高齢者すなわち一般的な高齢者は電気料金よりも身体への影響を気にしている傾向にあった。適切なエアコンの使用方法がわかっておらず、身体が冷えすぎてしまうことを危惧している結果であると考えられる。

（３）インターネット利用有無の違いについて

Q6（熱中症症状の理解）、Q7（暑さ指数（WBGT）の認知の程度）、Q9（熱中症警戒アラートの認知の程度）、Q11（日常的に確認する暑さの情報）といった、理解度や認知度、情報量を問う項目では、インターネットを利用していない方の理解度・認知度・取得情報量が低い傾向にあった。

Q8（暑さ指数（WBGT）の情報源）、Q10（熱中症警戒アラートの情報源）といった、情報源を問う項目では、紙面調査のインターネットを利用していない方では９割程度がテレビで情報を入手しており、それ以外の媒体ではあまり入手していない。一方でWEB調査やインターネットを利用する高齢者では、テレビは９割程度と多いものの、新聞等でも情報を入手している傾向にあった。また、紙面調査（シルバー人材センターに所属）は、WEB調査にくらべ、職場・所属団体から情報を入手している傾向がみられた。

Q15（屋外で実施している暑さ対策と頻度）、Q17-2（屋内の日中の暑さ対策の使用時間）Q18-2（屋内の就寝時の暑さ対策の使用時間）といった、屋内外の暑さ対策の実施頻度・時間を問う項目では、インターネットを利用していない方が実施頻度や実施時間が低い（短い）傾向にあった。

インターネットを利用していない方の理解度等の低い傾向は、情報取得手段がテレビのみと限定的であり、受け身の情報収集すなわちテレビから一方的に発信される情報に触れているのみであることが要因であると考えられる。理解度等が上がることで、暑さ対策行動を多くとる傾向にあることがわかっているため、熱中症弱者とされる高齢者（特にインターネットを利用しない方）に情報を届ける方法を検討する必要がある。紙面調査の回答からは、高齢者も所属する団体などから情報を入手していることが分かった。高齢者等が所属する団体等を通じた情報提供は、インターネットを利用していない方にとって効果的であると考えられる。

（４）暑さ指数（WBGT）の認知度等について

暑さ指数（WBGT）の認知度は44.9%、どのような指数か説明できる回答者は6.5%で、昨年、一昨年度から認知度が上昇している状況は見られなかった。

昨年度同様、熱中症警戒アラートを知っている回答者のほうが、暑さ指数（WBGT）の認知度が高い傾向にあり、暑さ指数（WBGT）を知っている回答者のほうが、暑さ対策行動を多くとる傾向にあった。対策種別毎に見ても、ほぼすべての対策で同様の傾向が見られた。

暑さ指数に関する情報発信についても、上述のように、高齢者等が所属する団体等を通じた情報提供も有効であると考えられる。